

四 元禄十六年一月、十二月

(表紙)

「元禄十六年癸未年

万覚牒

正月朔日、十二月廿九日迄

土屋治郎左衛門」

組下村々高付

一 高百三拾九石貳斗六升八合

前谷村

一 高六百貳拾貳石八斗三升

笹岡村

内 五百三拾四石八斗貳升九合七勺  
八拾八石三勺

宗左衛門  
市右衛門

一 高四百七拾八石七斗三升

宮谷村

一 高六百三拾貳石四斗四升

青野木村

内

三百四拾四石三斗六升九合

弥次兵衛

百六拾七石九斗九升四合

五十郎

百貳拾石七升七合

九右衛門

一 高五拾四石五斗五升

西方寺村

一 高百七拾貳石四斗壹升

清王村

一 高貳百九拾四石六升九合

赤尾村

一 高百貳拾四石五斗壹升

横垣村

一 高七百拾八石七斗四升

井江葭村

一 高三百九拾七石四斗

国影村

一 高貳百三拾七石七斗壹升

牛山村

一 高百貳拾五石八斗

城村

一 高六石四斗九合

新家

一 高百九拾九石六斗七升

西谷村

一 高七百九石七斗四升八合

船津村

一 高七百六拾九石九斗五升

十楽村

一 高九百貳拾貳石八斗五升

田中々村

一 高七百拾石貳升

番田村

一 高七百壹石五斗

重義村

高合八千拾八石六斗四合

元禄十六癸未年

正月一日

同二日

同三日

同四日

同五日

同六日

一 国影村次右衛門明後八日ニ鯖江へ参候由申二付、次右衛門去年江戸、早速罷帰候付、給金少ニ而迷惑之由願二付、其段委細久野右衛門様へ書状を以申上候、并ニたはこ之証文壹通、午ノ年作り候たはこ畑改之帳壹冊、同右之案紙共ニ指上候様ニと次右衛門ニ相

渡候、後山組右之証文帳共ニ言伝被申候

同七日

同八日

同九日

同十日

一 国影村次右衛門鯖江へ参願之段久野右衛門様へ申候由、并ニたは

こ畑御改帳・証文共ニ指上候由茂左衛門ニ申越候、八日ニ参九日

ニ罷帰候由

一 御廻米之義ニ付十二日鯖江へ参候様ニと、御廻状久野右衛門様へ

被遣候

正月十一日

同十二日

一 鯖江へ参候、御用之乍序年始御礼申上候

同十三日

一 当未春御廻米御割之書付請取申候

一 江戸納庄屋後山村権右衛門・戸口中村彦左衛門

一 三国立合舟寄村五兵衛・十楽村与三右衛門・西袋村市太夫

一 式番船上乘田中々村宇右衛門

一 六番船上乘重義村弥右衛門

一 去年春御廻米入用銀御勘定帳ニ判形仕指上候、同下帳かり申候  
村々庄屋判形取可申事

一金拾六兩銀拾壹匁八分六厘

是ハ去午春御廻米入用戻り金御渡請取候而、手形大庄屋連判ニ  
而指上申候、村々へ割渡判形を取、去春被遣候御手形共ニ返進

可申筈ニ候

一 去年たはこ作り不申候村々、証文ニ判形仕指上候

午御年貢之内未春御廻米之割

本来拾四石五斗四升五合  
一米三拾八俵

前谷村

金三分銀拾三匁壹分八厘 壹石二四匁宛

本来九拾七石六斗八合  
一米貳百五拾五俵

笹岡村

内三拾表

不熟米

金六兩貳分銀四分三厘

本来八拾六石壹斗貳升四合  
一米貳百貳拾五俵

宮谷村

内三拾五俵

金五兩貳分銀拾四匁五分

本来九拾六石七升七合  
一米貳百五拾壹俵

青野木村

内六拾壹表

金六兩壹分銀九匁三分壹厘

此訳

本来五拾貳石三斗壹升四合  
米百三拾六俵貳斗六升八合

弥次兵衛

内三拾三表

金三兩壹分銀拾四匁貳分六厘  
本米貳拾五石五斗貳升貳合  
米六拾六俵貳斗七升  
五十郎

内拾六表

金壹兩貳分銀拾貳匁九厘  
本米拾八石貳斗四升壹合  
米四拾七俵貳斗六升貳合  
九右衛門

内拾貳表

金壹兩銀拾貳匁九分六厘  
本米三十石八斗貳升八合  
一米拾俵  
西方寺村

金壹分銀三分八厘  
本米三拾五石貳斗壹升五合  
一米九拾貳俵  
清王村

金貳兩壹分銀五匁八分六厘  
本米三拾九石四斗貳升六合  
一米百三俵  
赤尾村

内六表

金貳兩貳分銀七匁七分壹厘  
本米拾三石七斗八升  
一米三拾六俵  
横垣村

内貳表

金三分銀拾四匁貳分貳厘  
本米百貳拾壹石七斗貳升貳合  
一米三百拾八俵  
井江葭村

内三拾八表

金八兩銀六匁八分九厘  
本米六拾石八斗六升壹合  
一米百五拾九俵  
国影村

内貳拾八表

金四兩銀三匁四分四厘  
本米三拾壹石七斗七升  
一米八拾三俵  
牛山村

金貳兩銀七匁八厘  
本米拾石七斗壹升八合  
一米貳拾八俵  
西谷村

金貳分銀拾貳匁八分七厘  
本米百九石八斗五升六合  
一米貳百八拾七俵  
舟津村

内四拾八表

金七兩壹分銀四匁四分  
本米三拾六石七斗四升七合  
一米九拾六俵  
十楽村

内拾九表

金貳兩壹分銀拾壹匁九分九厘  
本米貳拾九石九升壹合  
一米七拾六俵  
田中々村

内三拾五表

金壹兩三分銀拾壹匁三分六厘  
本米拾四石九斗貳升八合  
一米三拾九俵  
番田村

内拾四表

金三分銀拾四匁七分壹厘  
本米貳拾六石四斗壹升貳合  
一米六拾九俵  
重義村

内八表

金壹兩壹分銀六分五厘  
本米八百貳拾八石七斗八合  
米貳千百六拾五俵  
右之寄

本米八百貳拾八石七斗八合  
米貳千百六拾五俵

内

六百式拾俵

去冬郷藏納

七百式拾六俵

二月五日迄ニ可仕立

八百拾九俵

同晦日迄ニ可仕立

金五拾五兩銀拾四匁八分四厘

壹石ニ付四匁ツ、

此銀三貫三百拾四匁八分四厘

一金四拾壹兩壹分銀拾壹匁分式厘 壹石二三匁ツ、

正月十四日

一 鯖江ニ而御暇乞申上福居迄罷歸り候

同十五日

一 福居お罷歸り候

同十六日

同十七日

一 当国米雜穀高直ニ付来十六日お沖口留、米雜穀他国へ不出候由

福居役人中お申来候間、村々へ可被申渡候、以上

正月十四日

小林郷介印

齋藤久野右衛門印

尾花園右衛門印

青山藤介印

坂井郡大庄屋中

此書付披見早々可被相廻候、留りお重而可被相返候、以上

右御書付今日後山村お参候ニ付村々庄屋中へ申渡候

一 村々庄屋中呼寄候而、御廻米之義段々日切書付村々へ相渡し申候

一 去午春御廻米入用銀、御勘定帳ニ村々判形を取、戻り金之分我等

方ニ預り置申由申渡し候

一 宗旨御改下帳来十日切ニ持参候様ニと申渡し候

一 諸遣帳右同断

一 村々飢人相改、当廿五日迄帳面遣し被申候様ニと申渡し候

一 中札書付当月中ニ持参候様ニと申渡し候

一 火之用心之事堅申渡し候

同十八日

一 巳御年貢之内午春御廻米入用御勘定帳、御役所お被遣候ニ付写取候而本帳後山平助方へ遣し申候

一金津三田村六右衛門殿へ参候へハ御断被仰聞候ハ、番田村兵右衛

門金津へ罷出酒を給候而醉狂仕、何角とやかましく候ニ付、金津

・三国へ寄付不申候様ニ相心得候様ニと相渡候間、右兵右衛門罷

出醉狂不仕候様ニ此方お申付可然由御断ニ候、其上細呂木太郎左

衛門、西方寺市郎兵衛と高出入之事埒明不申候ニ付、太郎左衛門

方お訴訟申事ニ候、内々ニ而相済申間敷事ニ候ハ、鯖江御役所へ

可申達候哉と御申候ニ付、此跡出入申出候付内々ニ而相済候様ニ

と申聞候得共、市郎兵衛承引不仕、其内太郎左衛門方おとかくの  
事不申出候ニ付其通ニ仕置候、今又太郎左衛門訴出候ハ、一往市  
郎兵衛手前吟味可仕由申達罷帰り候

同十九日

同廿日

同廿一日

同廿二日

一西方寺村市郎兵衛・同村十右衛門、細呂木太郎左衛門高預り之算  
用仕候様ニとの訴状持参仕候ニ付、最前六右衛門殿を御断之事ニ  
候へハ、太郎左衛門方お出入ニ罷出可申と存候、十右衛門と出入  
を仕、其内太郎左衛門と出入取組申義何共難心得候、夫とても十  
右衛門との出入可仕義ニ候哉と段々申聞候へハ、先此訴状ハ指上  
申間敷由ニ而罷帰候、太郎左衛門方お出入ニ罷出申義ニ候ハ、返  
答可仕由市郎兵衛申ニ付、勝手次第第二仕様ニと申聞候

正月廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

同廿七日

一中札紙買ニ福居へ自分お遣ス

覚

一坂井郡村々廻米三国湊へ津出道法之義、委細書付可被指越候、  
川路有之所ハ川路・道法両様共ニ吟味之上書付可被申候、則別  
紙案文遣候間可被得其意候

一去午ノ年御藏前入用銀并南都勧化金諸々之通取立、当二月中ニ  
可相納旨被仰付候間、可被得其意候

未正月廿六日

小林郷介印

尾花園右衛門印

青山藤介印

坂井郡大庄屋三人

覚

一何村お三国湊迄 陸路何里  
川路何里

但川舟運賃百俵ニ付銀何程

一何村お三国湊迄陸路何里

右村々お三国湊迄御廻米津出し仕候、道法并川路吟味仕候処如此

二御座候、百姓共勝手次第陸付又ハ川舟雇、津出仕来候処相違無

御座候、以上

未正月何日

何村大庄屋

誰印

御役所

右両通ニ付後山村お村次ニ参候を請取候

同廿八日

同廿九日

一西谷村五郎右衛門庄屋ニ立申義仕間敷候間、小百姓之内伝兵衛と申者庄屋ニ立可申と申參候ニ付、五郎右衛門庄屋為致申間敷との事ニ候ハ、代庄屋ニ長百姓新右衛門相立可申候、伝兵衛義人柄も不存、殊二度々出入仕者之事ニ候へハ、庄屋ニ相立申事難成由申聞候へハ、村ニ而相談仕重而可申来由ニ而歸り候

一西方寺村十右衛門庄屋立申義仕間敷候間、小百姓之内五郎左衛門と申者庄屋可仕由申来り候ニ付、十右衛門庄屋致させ申間敷との事ニ候ハ、長百姓市郎右衛門代り庄屋ニ罷立可申候、五郎左衛門義人柄も不存候へハ、庄屋ニ相立申事難成候由申聞候へハ、市郎右衛門義馬喰仕候ニ付庄屋仕間敷との申様ニ候へ共、馬工郎ハ自分手、庄屋ハ御公儀事ニ候へハ、庄屋仕様ニと申聞候

二月朔日

同二日

一巳御年貢之内午ノ春御廻米入用銀払方御勘定被成、戻り金御返し候を与下村々へ相渡請取手形を取、并ニ右惣入用金度々指上候金四拾貳両貳分銀九匁八分、藤介様御手形三枚共ニ久野右衛門様へ指上候へハ、村々戻り金之帳手形、藤助様御手形共ニ御請取候而、藤介様へ御渡し之由御返事有

二月三日

一笹岡村清右衛門、二股之田を去閏八月廿九日ニ同村利兵衛盗刈取候由、清右衛門方の訴状指上候ニ付、手形を指添久野右衛門様へ指上候

指上候

同四日

一右清右衛門訴状御添被遊返答仕候様ニと被仰付、訴状庄屋宗左衛門方迄被遣候

同五日

同六日

一右清右衛門訴状宗左衛門方へ利兵衛請取ニ不參候由ニ而、訴状此方へ持參候ニ付利兵衛呼寄訴状相渡、利兵衛方の手形取申候

一笹岡村宗左衛門方の市郎右衛門・仁左衛門・利兵衛・助右衛門庄屋組を除申度由、年内も度々宗左衛門願出候ニ付、弥庄屋組除申度との願ニ候哉と相尋候へハ、何とそ右四人を除申度宗左衛門申ニ付、右四人之内として庄屋相立候様ニと申付候

同七日

一右四人之内ニ而市右衛門(マ)を庄屋ニ立申由申来り候、仁左衛門を長百姓ニ立申様ニと申渡し候

同八日

一 与中御米中札取集御印形被成被下候様ニと手紙を添、源八ニ為持  
久野右衛門様へ遣し申候

同九日

同十日

一 中札為持遣し候処、三国ニ而御印形可被成由御返し被成候

同十一日

一 一番田村兵右衛門詔言ニ三田村六右衛門殿へ参候、御取上ケ無之罷  
歸り候

一 舟津村清右衛門・二面村喜右衛門を申出候貸方之義、清左衛門委  
細申聞候

同十二日

一 御米九拾六俵

十楽村

内

五拾九表

百姓仕立

三拾七俵

同断

一 御米七拾六俵

田中々村

百姓仕立

一 昨日十一日ニ御廻米津出シ御用ニ久野右衛門様三国へ御越被遊候

二 付、参御意得候

一 御廻米入用先割銀、最前御米壺石ニ付四匁取立候様ニと被仰付候  
処、当年御廻米も大分ニ而百姓難義由ニ候へハ、御米壺石ニ付三  
匁ツ、取立指上候様ニと被仰付候

一 笹岡村清右衛門出入、当十九日ニ返答指上候ハ、御聞可被遊由被  
仰付候へ共、御廻米津出し之義ニ付庄屋・長百姓隙入申義ニ候、

其上下ニ而相済申度由願申義ニ候間、十九日ニハ鯖江へ遣し候事  
難成候、其内相済候ハ、様子御聞被下候様ニと久野右衛門様へ申  
上候

一 細呂木村太郎左衛門、西方寺村と出入之義ニ付太郎左衛門訴状之  
写、三田村六右衛門殿御状を被添被遣候得共、拙者三国へ参不罷  
有候ニ付御返事も不申候、当十一日太郎左衛門訴状写可被遣被仰  
聞候ニ付、拙者三国へ御用候而参候間、御返事申間敷由六右衛門  
殿へ御断申入候

二月十三日

同十四日

同十五日

一 西谷村五右衛門庄屋御替被下候様ニと最前申上候得共、当秋迄五  
郎右衛門庄屋立置申候由、新右衛門・伝兵衛断申来り候、然共重  
而段々聞届可申候、先御廻米急候間如何様共仕置候様ニと申付候

同十六日

同十七日

一 御廻米津出し早々仕候様ニと申遣候、并ニ先割銀最前者御米壹石  
 二 付四匁ツ、と申越候得共、三匁ツ、取立申様ニと申遣候  
 一 笹岡村清右衛門・利兵衛ニ申聞候ハ、出入之義ニ付十九日ニ鯖江  
 へ遣し可申事ニ候へ共、御廻米津出しニ付庄屋長百姓隙入ニ候間、  
 鯖江へ遅参候事ハ久野右衛門様へ御断申上候由申渡し候

同十八日

同十九日

覚

一 安藤源五右衛門、病氣ニ付□□江戸ニ而御暇申請候由申来り候、  
 源五右衛門ニ対金銀指引其外出入申分有之候ハ、早速可申出候、  
 勿論面々組下へ右之段相触、村下ニ庄屋印形取置可被申候

一 南都大仏勸化金、早々相納候様ニ昨日青山藤助方も申来り候間、  
 無油断取立可被相納候、尤先割銀先日申談候通ニ候間、爰元  
 へ早々可被指越候

一 廻米之義村方ニ而いか、相心得申候哉、村ニも四斗壹升五合入  
 二 而津出し候村多有之候、爰元納之節蔵前ニ而混乱いたし、其  
 上百姓共も大分損失有之候間、村々へ早々入念可被申渡候、此  
 上目不足ニ候ハ、可為越度候、以上

未二月十八日

坂井郡

大庄屋三人

齋藤久野右衛門 印

此配符名下被致印判、留る重而可被相返候

右之通組下村々へ申触候

同廿日

同廿一日

同廿二日

一 重義村太郎兵衛去年相済候事を破り、孫四郎跡目ニ仕間敷由申候  
 由庄屋中も断ニ候

同廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

一 鯖江へ書物為持遣ス

一 重義村太郎兵衛・庄屋・長百姓共ニ呼寄吟味仕候処、孫四郎を跡  
 目ニ立申間敷由太郎兵衛申ニ付、孫四郎ニ其段申聞、此上ハ如何  
 様共孫四郎心次第ニ仕候様ニと申渡し候

一 西方寺村市郎兵衛・市郎右衛門・十右衛門呼寄候得者、細呂木村  
 太郎左衛門方も指上候書付之写、并三田村六右衛門殿も御状之趣  
 申渡候へハ、下ニ而扱済申度由市郎兵衛申ニ付、宮谷村義太夫十  
 楽村五十郎・清王村権兵衛扱ニ出し可申由申渡し候

一 最前西方寺村十右衛門ニ申分有之候ニ付、庄屋為致申間敷由市郎

右衛門・市郎兵衛申二付、出入之義ハともかくも庄屋之義ハ市郎右衛門仕候様ニと申渡候へハ、又十右衛門ニ庄屋為致可申由申分有之と申懸候者ニ、庄屋為致置候事何共底濟不仕候間、向後庄屋ハ市郎右衛門可仕候、若又十右衛門ニ出入申分無之との書出し候ハ、十右衛門ニ庄屋為致可申と申渡し候

一十右衛門、親あせち分ニ開畑三ヶ所有之候を譲り置申候処、此程右之開畑半分市郎右衛門方ヲ打起候由十右衛門断申二付、市郎右衛門ニ相尋候へハ、右三ヶ所開畑半分取可申筈之親十右衛門書置を仕、伯父善右衛門ニ預ケ置候由市郎右衛門申二付、其書付持参仕候様ニと善右衛門方へ申遣し候

一笹岡村清右衛門二侯之田、利兵衛去秋かり取候二付清右衛門訴状指上候処、利兵衛不及返答ニ誤り候由色々詫言申二付、清右衛門訴状之奥ニ利兵衛誤り証文判形取申候

二月廿七日

一右清右衛門ニ申聞候ハ、利兵衛誤り証文出し候上ハ、下ニ而相濟候様ニと段々申聞せ候へハ相濟可申と申二付、其段利兵衛書付奥書判形仕候、并庄屋長百姓段々申届候由奥判仕候

一西方寺村親十右衛門書置、善右衛門持参仕候ニ付写置候、十右衛門方ヲ親十右衛門持判之由持参仕候処、相改候へハ書置ニ有之印判とハ違申候

一中野元右衛門殿今ハ山田才右衛門殿と申候由、何れも大庄屋中連

名ニ而正月五日御状舟寄善右衛門ヲ参候を請取候

同廿八日

同廿九日

一当御廻米入用銀之内午戻り銀指次残銀請取申候

同晦日

一右同断

一栗毛三才馬壹疋

髮切

青野木村

弥次兵衛

一鹿毛三才馬壹疋

同

同人

ノ式疋

加州へ参候、細呂木口通手形奥判仕候

午御年貢本途小物成 南都勸化金之覚

前谷村

一金拾四兩壹分銀拾貳匁三分六厘

御年貢金

一米七斗七升三合

口米

一金壹分銀五匁八分九厘

勸化金

笹岡村

一金七拾四兩銀六匁五分九厘

御年貢金

一米四石七斗五升壹合

口米

一金壹兩貳分銀三匁四分貳厘

勸化金

宮谷村

一金六拾兩三分銀貳匁九分七厘

御年貢金

一金貳拾三兩銀拾匁分貳厘

御年貢金

一米四石八升六合

口米

一米壹石六斗四升三合

口米

一金壹兩銀拾壹匁八分壹厘

勸化金

一金壹分銀拾匁八分六厘

勸化金

青野木村

赤尾村

一金七拾三兩銀七匁三分六厘

御年貢金

一金三拾貳兩銀六匁九分三厘

御年貢金

一米四石七斗壹升四合

口米

一米壹石九斗八升四合

口米

一金壹兩貳分銀四匁八分七厘

勸化金

一金貳分銀拾四匁壹分壹厘

勸化金

内

横垣村

金四拾兩壹分銀壹匁九分貳厘

弥次兵衛

一金拾貳兩貳分銀八匁七分七厘

御年貢金

米貳石五斗六升六合

五十郎

一米七斗貳升四合

口米

金三分銀六匁六分六厘

一金壹分銀三匁六分八厘

勸化金

金拾九兩銀九匁七厘

九右衛門

井江葭村

一金八拾七兩銀貳匁六分七厘

御年貢金

米壹石貳斗五升三合

一米五石八斗五升貳合

口米

金壹分銀拾匁貳分

一金壹兩三分銀貳匁八分壹厘

勸化金

金拾三兩貳分銀拾壹匁三分七厘

九右衛門

国影村

一金四拾五兩貳分銀六匁七分

御年貢金

米八斗九升五合

西方寺村

一米貳石九斗七升七合

口米

金壹分銀三匁壹厘

一金四拾五兩貳分銀六匁七分

御年貢金

一金四兩三分銀四匁九分壹厘

御年貢金

一金三分銀拾四匁六分壹厘

勸化金

一米貳斗貳升九合

口米

牛山村

一米貳石九斗七升七合

口米

一銀八匁三分八厘

勸化金

一金貳拾六兩壹分銀拾貳匁五分

御年貢金

清王村

一米壹石六斗四合

口米

一金式分銀五匁六分六厘  
勸化金

船津村

一金八拾壹兩式分銀八匁八厘  
御年貢金

一米五石三斗六升式合  
口米

一金壹兩三分銀壹匁四分六厘  
勸化金

西谷村

一金拾六兩銀拾三匁四分式厘  
御年貢金

一米七斗壹升三合  
口米

一金壹分銀拾四匁九分五厘  
勸化金

十楽村

一金五拾九兩式分銀拾式匁三分三厘  
御年貢金

一米式石五斗九升九合  
口米

一金壹兩三分銀拾四匁九厘  
勸化金

田中々村

一金六拾六兩銀九匁八分四厘  
御年貢金

一米式石五斗式升五合  
口米

一金式兩壹分銀三匁四分三厘  
勸化金

番田村

一金四拾八兩壹分銀拾式匁三分八厘  
御年貢金

一米壹石六斗四升六合  
口米

一金壹兩三分銀壹匁五分  
勸化金

重義村

一金五拾式兩銀五匁三分  
御年貢金

一米式石八升七合  
口米

一金壹兩三分銀式分三厘  
勸化金

一金式拾四兩壹分九匁七分六厘  
御年貢金

一金壹分銀三匁八分七厘  
勸化金

一金式兩壹分銀拾式匁三厘  
御年貢金

一銀九分六厘  
勸化金

一銀九分六厘  
勸化金

右之寄

米四拾四石式斗六升九合

金八百五兩壹分銀拾四匁九分六厘

内四百四拾壹兩壹分 度々納

殘金三百六拾四兩銀拾四匁九分六厘

内

八拾兩 三月廿日切

百四拾兩 四月廿日切

百四拾四兩余 六月五日切

金式拾兩銀式匁七分九厘 南都勸化金

是ハ二月中急度可被相納候

右者村々去午御年貢金納下り、書面之通取立日限無滞急度可被相

納候

二月廿五日

小林郷助印

斎藤久野右衛門印

尾花園右衛門

青山藤助印

前谷村

大庄屋二郎左衛門殿

此書付追而可被相返候

右之御書付桐村を持参請取候

三月一日

一銀拾壹匁九分九厘 西方寺村 遣権兵衛

内

七匁四分壹厘 御廻米先割銀二入

四匁五分八厘 勸化銀之内ニ請取

笹岡村未春御廻米先割銀取

一金四兩三分銀七匁八分式厘 御廻米入用銀

内 壹兩三分拾壹匁式分六厘 戻り銀

内 式兩三分拾壹匁五分六厘

此取

金四兩銀拾壹匁四分四厘 宗左衛門

内 壹兩式分拾匁八分七厘 戻り銀

内 式兩式分五分八厘

金式分銀拾壹匁三分七厘 市右衛門

壹分三分九厘

戻り銀

内 壹分拾匁九分八厘

一田中々村宇右衛門・重義村弥右衛門上乘請証文、親類書判形相濟候ニ付午・未兩年之請状式通、舟寄村善右衛門方へ相届申様ニと

清間村迄遣し申候

金高四拾壹兩壹分銀拾壹匁式厘 未春三匁銀  
一金式拾兩壹分銀九匁三厘 取立

内壹兩壹分壹匁三分九厘 勸化金之内

一金五兩銀七匁五分 有金

一金壹分拾匁九分八厘 笹岡村市右衛門入

三月五日ニ請取  
金壹分銀六匁壹分

西谷村

一金三兩壹分銀拾壹匁九分式厘 舟津村

一金壹兩壹分銀拾壹匁四分壹厘 十楽村

一金壹兩式分 前谷村六助を預り

三月二日

一金津三田村六右衛門殿へ参、細呂木太郎左衛門出入嘸ニ仕度候ニ付、十楽村五十郎・清王権兵衛・宮谷義太夫三人ニ申付候、其内右三人方を太郎左衛門ニ用事候ハ、可申遣候間、太郎左衛門罷出候様ニ被仰付被下候様ニと申候、次ニ番田村兵右衛門義も申上候、夫を三国へ参候

同三日

一井江葭村二郎右衛門・国影茂左衛門・田中々村長兵衛・番田又左衛門・重義村五右衛門・二郎兵衛、与中惣代として久野右衛門様へ御礼ニ罷出候、金壹兩半切我取かへ申候

一御廻船上乗、田中々村宇右衛門・重義弥右衛門親類指上申候

一笹岡村清右衛門・利兵衛出入相濟候証文共、久野右衛門様御目ニ

懸り候

一重義孫四郎出入段々申上候

一金五兩三分出村甚左衛門ニ相渡、御廻米拾俵仕立申答ニ候

金式両式分

舟津村三匁銀之内請取

同四日

同五日

一重義村孫四郎出入之義、久野右衛門様一通り御聞可被成由被仰候

二付、太郎兵衛・孫四郎めしつれ、明六日ニ庄屋長百姓参候様ニ

と申遣し候

同六日

一金式拾四兩 未春御廻米入用銀之内久野右衛門様へ指上手形有

一重義村孫四郎・太郎兵衛出入之義ニ付、右之両人庄屋長百姓被召

寄候而様子御聞候へ共相濟不申候ニ付、藤介様迄手紙指添候而孫

四郎訴状持参いたし候

同七日

一舟津村清右衛門・二面村喜右衛門出入之事、下ニ而相濟不申候由清右衛門断ニ候

一重義村孫四郎訴状ニ御付状被遊返答太郎兵衛ニ被仰付候ニ付、則太郎兵衛方へ遣し候

同八日

同九日

一前谷村御廻米今日三国へ出し御蔵納仕候、自分北村御廻米拾四表、青野木村御廻米十楽村五十郎とかへ米仕、右拾四表之御米相納、青野木村分之手形取申候

三月十日

一重義村太郎兵衛返答難成候間、右何れも扱之通相濟可申由申ニ付、太郎兵衛夫婦・孫四郎右扱ニ罷出候者共呼出段々相尋候処、何様ニも相濟可申と太郎兵衛願候ニ付、孫四郎指上候訴状ニ奥書為致、太郎兵衛・孫四郎判形仕扱人加判之証文請取候、并孫四郎義太郎兵衛持高式拾五石家跡式不残相渡シ被申候上ハ、太郎兵衛夫婦ニ心之及程之孝行仕、身持能可仕との別紙証文太郎兵衛ニ相渡申候而相濟候

同十一日

一 鯖江へ御用ニ自分〆遣ス

同十二日

午ノ年御加免御口米増之分村々仕出シ

一米五升五合 前谷村

一米式斗四升式合 笹岡村

一米壹斗六升九合 宮谷村

一米式斗式升六合 青野木村

一米式升壹合 西方寺村

一米六升七合 清王村

一米壹斗式升式合 赤尾村

一米四升六合 横垣村

一米式斗六升八合 井江葭村

一米壹斗四升式合 国影村

一米九升三合 牛山村

一米七升八合 西谷村

一米式斗四升三合 舟津村

一米式斗七升 十楽村

一米壹斗九升九合 田中々村

一米壹斗九升 番田村

一米式斗三升三合 重義村

一米四升七合 城村

一米式合

米式石七斗壹升三合

新家

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

一 重義村孫四郎・太郎兵衛親子出入相済候段久野右衛門様へ申上候  
へハ、御役所可被仰上由御返事被遣候

一 当未ノ年たはこ作候義、去午年作り之半分作之様ニと帳面御案紙  
被遣候而請取候

同十九日

同廿日

同廿一日

一 御廻米御急之処我等与下不足有之候間、吟味之上(急)々相納候様ニ  
可申付之段久野右衛門様被仰候由ニ而、立合与三右衛門方〆書状  
指越候而請取申候

三月廿二日

一御廻米之義、たはこ当未年作候義、御年貢金之義申渡御用ニ付、  
村々庄屋中呼候而右之段々堅申渡候

三月廿七日  
一銀式百拾三匁 松岡屋義右衛門 濟  
同廿九日  
一銀七拾壹匁 同甚左衛門

同廿三日

同廿四日

一御廻米之内不熟米不足ニ付、御舟積之支ニ成申由久野右衛門様  
被仰越候ニ付、御米不足之村々へ堅申遣し候

一銀七拾壹匁 麦屋吉左衛門  
一銀百六匁五分 丸屋市右衛門  
同晦日 福居屋くら  
一銀百六匁五分 山城屋さよ  
同廿八日 一銀百六匁五分  
一銀三拾五匁五分

同廿五日

一細呂木村太郎左衛門高之内五石七斗五升、西方寺村十右衛門請作  
ニ仕置候処、市郎兵衛方の茶・桑を摘取、田畑手懸候而めいわく  
仕候由書付を以断申出候

同廿八日

一西方寺村市郎兵衛・市郎右衛門呼寄、太郎左衛門分之田地出入落  
着迄ハ跡々之通十右衛門ニ為作候様ニと申聞候得共、市郎兵衛承  
引不仕候ニ付口上書を取置候

同廿六日

同廿七日

金八両貳分銀壹匁 舟津村弥次兵衛  
孫右衛門

一当未ノ年たはこ作り候証文・御案紙共ニ久野右衛門様へ指上候  
一村々不熟米入方吟味いたし候

此米拾四表 壹表ニ付三拾六匁五分

同廿九日

此質高拾三石

一舟津村五右衛門分御廻米并御年貢不足金之吟味仕候処、庄屋長百  
姓一門之者共相談之上重而返事可申由ニ而罷歸り候

一右之通西方寺村十右衛門申ニ付、市郎兵衛を呼寄様子聞届候処、  
何角と申埒明不申「」市郎右衛門ニ參候様ニと申遣し候

同晦日

去暮貸申米代銀之覚

四月一日

同二日

一右五右衛門不足金相談仕候得共金子出来<sup>(不)</sup>申候二付、持高之内切高二仕、一門之者共并□百姓共年季本物返シニ而預り候而、金子仕立可申由申来り候二付証文取置候

四月三日

一右五右衛門義二付清左衛門不罷出候二付度々申遣候処、清左衛門参候而段々申訳之口書取置候  
一麦屋吉左衛門を貸米代銀之内三拾匁請取、残而四拾匁不足有

同四日

同五日

一村々御年貢金請取并宗旨御改百姓判、次ニ諸役割方帳ニ判形取申候  
一西方寺村市郎兵衛・太郎左衛門高之田地、跡々を十右衛門請作二仕候処、当春太郎左衛門出入申出候処、市郎兵衛方を十右衛門ニ為作申間敷と申二付、市郎兵衛ニ跡々之通此出入落着迄八十右衛門ニ為作候様ニと申聞候得共、承引不仕候二付口上書取置申候、此段右を嘸ニ罷出候、清王権兵衛・宮谷義太夫二申聞候へハ、今一往市郎兵衛ニ段々可申聞由右扱人被申候

一村々御年貢金請取并宗旨帳百姓判、次ニ諸役割帳判形取申候

同七日

一笹岡村・舟津村・西谷村御廻米不足之由、当九日切ニ相濟候様ニと与三右衛門方を三国之飛脚ニ而申越候  
一金七拾八匁三分  
四月七日迄

内

六拾六匁壹分 通帳二付  
拾壹匁貳分 村通二付  
壹匁 舟津村三匁銀

一舟津村・西谷村御廻米不足為吟味権□□遣し候へハ、九日ニハ御米相濟可申由何れも申二付、其段久野右衛門様御断申上候  
一笹岡村之御米吟味仕候

一西方寺村市郎兵衛参候而、十右衛門ニ田地為作申義、宮谷義太夫・清王権兵衛色々被申候得共、十右衛門ニ為作申事不罷成候と申切罷歸り候

一同村十右衛門参右之段申二付、最前度々市郎兵衛ニ申聞候得共、右田地市郎兵衛作可申と申候由申聞候へハ、鯖江御訴訟ニ参度由申二付、太郎左衛門出入も金津を鯖江へ可被仰上事ニ候、其内へ罷出何角申上候事不可然候間、先当分相待候様ニと申聞候

同六日

同八日

覚

一金五拾両

右之御金髓ニ請取明九日ニ鯖江へ持参仕指上、御手形を申請相渡可申候、以上

前谷村源八郎(印)

- 一 笹岡村清右衛門当春指上候訴状利兵衛ニ返答被仰付候御指紙、重義村孫四郎指上候訴状太郎兵衛ニ返答被仰付候御指紙、右式通共
- 二 藤助様返上仕候、右いづれも申上候出入下ニ而相濟候ニ付如此ニ候

一 細呂木村太郎左衛門、西方寺村市郎兵衛と出入之義、右市郎兵衛と同村十右衛門と出入之義、委細以書状藤助様申上候

- 一 太郎左衛門五年以前卯年指上候訴状之写并当春指上候訴状之写、
- 三 田村六右衛門殿被遣候を御覽被成候様ニと申、藤介様へ為持指上候

四月九日

同日

- 一 笹岡村御廻米指支候ニ付、御詮義可被遊由被仰越候ニ付、庄屋宗左衛門難義之段色々断申ニ付、与中御年貢取立金之内三両、当廿日迄宗左衛門ニかし申候証文取置候
- 一 牛山村宗二郎ハ奉公仕宿ニ不罷有候而、年寄候母老人宿ニ罷有候処、当七日之夜同村二郎右衛門、宗二郎宅へふミこミ母を打擲仕、

其上宗二郎持山へ二郎右衛門立入木を切候間、吟味仕候様ニと申来り候ニ付、いか様之子細ニ而左様ニ仕候哉様子相尋候而、申分も有之候ハ、二郎右衛門同道ニ而参候様ニと、弥兵衛・長百姓共方へはいふ遣し申候

一 昨九日ニ源八鯖江へ持参候五拾両之金子之内四拾九両三分指上、藤助様御手形を申請罷歸り候

一 西方寺村市郎兵衛・細呂木村太郎左衛門出入之事、市郎兵衛・十右衛門出入之事申上候へハ、此方ニ而申付、聞不申候ハ、当十九日ニ市郎兵衛十右衛門・市郎右衛門鯖江へ参候様ニと、別紙御配符配被遣候

一 笹岡村清右衛門・重義村孫四郎出入下ニ而相濟候段、御聞届之由藤介様御返事被遣候

同十一日



金五両式分

舟津村清右衛門(印)

午御年貢金之内請取手形相渡、五月廿日ニ書かへ

- 一 西方寺村市郎右衛門・市郎兵衛呼寄、細呂木村太郎左衛門高之内跡々之通十右衛門請作之分ハ、十右衛門ニ為作候様ニと段々委細ニ申「」此上合点不被参候ハ、当十九日ニ鯖江「」
- 一 弥鯖江へ参申をゐてハ、書物等指上物有之候間此方へ断可申候、并十右衛門ニも其段申聞候

同十二日

一金貳両壹分 笹岡村市右衛門ニかし、手形有

当御廻米滞候処御舟出船支候ニ付、納金之内先取かへかし申候

一舟津村五右衛門質高之壹石本代銀百匁ツ、ニ相極、其外清左衛門

・清兵衛・清右衛門・九左衛門・源右衛門ニ、五右衛門残高之請

方御年貢方指引之義、何れも立合吟味仕候様ニと堅申渡候、右之

相談相極候ハ、証文取可申由申渡候

同十三日

一金拾七両壹分銀拾壹匁分貳厘

是ハ未春御廻米入用銀之内久野右衛門様へ指上、四月六日之

日付之御手形被遣候

同十四日

同十五日

一番田村弥右衛門屋敷境之道を、伝右衛門堀を掘せはめ申由弥右衛門断ニ参候

一西方寺村十右衛門・太郎左衛門分請作之田、当十二日二十右衛門

植付候へハ、十三日二市郎兵衛かきまくり申由十右衛門断申候

同十六日

同十七日

一西方寺村十右衛門・太郎左衛門ハ、請田一郎兵衛妨候ニ付訴状指  
出候ニ付、手紙を相添鯖江へ指上申候

四月十八日

一細呂木村太郎左衛門卯年指上候訴状壹通、当春指上候訴状壹通、

并太郎左衛門出入高之段々、十右衛門請田之段々、市郎兵衛仕形

共条書二仕、藤助様へ持参仕指上候様ニと申付、西方寺村市郎兵

衛ニ相渡申候、明十九日二市郎兵衛・市郎右衛門兩人共ニ鯖江参

候様ニと申付候

同十九日

一米貳表 笹岡村 三兵衛

一米貳表 青野木 弥次兵衛

一米壹表 同 九郎兵衛

一米壹表 舟津村 次右衛門

一米三表 宮谷村 清右衛門

一米壹表 田中々村新右衛門

一米壹表 赤尾村 伊右衛門

一米壹表 牛山村 庄五郎

一米壹表 宮谷村 万四郎

ノ拾三表

此仕替賃銀五匁式分、壹表二付四分ツ、

右御廻米色替り俵仕かへちん如此ニ取立、三国境屋甚右衛門方へ相渡候様ニと、右御書付久野右衛門様を被遣候

右之銀子十楽村与三右衛門ニ渡

同廿日

同廿一日

一 西方寺村之内ニ而高九石細呂木村太郎(左衛門)と西方寺村市郎兵衛

と出入ニ罷成候処、五年以前卯年太郎左衛門方を訴状指上候由ニ

而、金津御郡所三田村六右衛門殿を右訴状之写を以拙者方へ御断

ニ付、指中村与頭彦三郎・拙者罷出扱候へ共相済不申候ニ付、其

段六右衛門殿へ御断申入候へ共、鯖江御役所へ無御断も其通ニ罷

成候処、当春太郎左衛門方を訴状指上候由ニ而、卯年之訴状之写、

当春指上候訴状之写を以六右衛門殿御口上ニ被仰聞候、太郎左衛

門何様ニ申候共、西方寺村ニ罷有候百姓同前ニハ作徳等も取申事

成間敷事ニ候間、作徳之分吟味之上相当程畑ニ而も山ニ而も又ハ

米ニ而も、太郎左衛門ニ相渡スニ扱候而、何とそ下ニ而相済申度

と御申ニ付、庄屋市郎右衛門ニ扱仕相済申様ニと申聞候へハ、何

様共扱ニ仕度由申ニ付、宮谷村義太夫・柿原十楽村五十郎・清王

村権兵衛を扱ニ出シ、先右九石之高之上田畑山おろし米相改、御

年貢米と指引算用仕、作徳米を以六右衛門殿と内談仕扱可申と存

候処、右高九石之内五石七斗五升之田地ハ先年を西方寺村十右衛

門請作ニ仕、三石式斗五升ハ市郎兵衛支配仕候処、十右衛門請作

之田地当年俄二十右衛門ニ為作申間敷由ニ而、色々市郎兵衛方を

妨候ニ付、十右衛門方を段々書付以訴出、又六右衛門殿を太郎左

衛門との出入落着迄ハ、跡々之通田地をも十右衛門ニ為作候様ニ

と御断ニ付、色々市郎兵衛申聞せ、其上義太夫・権兵衛・市郎右

衛門を以太郎左衛門と出入落着迄ハ、跡々之通二十右衛門ニ為作

置、先太郎左衛門と出入を仕落着ニ付、如何様共仕候様ニと数度

申聞ニ候得共、市郎兵衛承引不仕候ニ付、当月九日ニ委細書付を

以鯖江御役所へ申上候へハ、太郎左衛門と出入者各別(格)、十右衛門

作付候田地市郎兵衛方を妨申間敷候、夫迎も市郎兵衛承引不仕候

ハ、当月十九日ニ市郎兵衛・十右衛門・市郎右衛門鯖江へ参候

様ニと御書付被遣候ニ付、同十一日ニ市郎兵衛・市郎右衛門ニ

段々申聞候処、市郎兵衛合点不仕候ニ付、十右衛門ニ田地為作申

間敷との道理有之候ハ、書付を以申上候様ニと申聞候、然処翌十

二日二十右衛門右之請田植付候処、十三日ニ市郎兵衛方をかきま

くり申ニ付、十九日日(三)人共ニ鯖江へ参候様ニと申渡シ遣し候

へハ、廿日・廿一日ニ段々御役所ニ而御詮義之上被仰聞候ハ、太

郎左衛門と出入之義ハ、大宮彦右衛門殿を御断之節者返答書を以

何様ニも出入可仕候、此十右衛門請田之義ハ先年之通十右衛門ニ

為作候様ニと委細被仰付候処、相背御請不申候ニ付、市郎兵衛ニ

手錠被仰付御返し被遊候段委細被仰遣候を、同廿二日二十右衛門

持参仕請取候

四月廿二日

一 右之御書付共鯖江に被遣候を西方寺村十右衛門持參仕候二付、十右衛門口上書承届候

一番田村弥右衛門と兵右衛門田之境、兵右衛門方を打たやし申由、次ニ弥右衛門と小右衛門屋敷境之道を、小右衛門屋敷之内へ取込堀掘申由弥右衛門断申二付、番田村へ參候而、少々之事ニ候間庄屋長百姓立合埒明被申候様ニと申付候

同廿三日

一 西方寺村市郎右衛門參、市郎兵衛手錠之義御詫言申上度由申候

同廿四日

一 西方寺村へ拙者・宮谷村義太夫・清王権兵衛同道ニ而參、此度市郎兵衛我ま、之事とも重々申上候二付、手錠被仰付候義申聞候へハ市郎兵衛誤り至極任、此上ハ如何様共御詫言申上くれ候様ニと申二付、先日鯖江ニ而被仰付候市郎兵衛口書ニ判形不仕候を被遣候二付、其口書ニ奥書を仕市郎兵衛判形を取、此上者何とぞ御詫言可仕由申渡候、次ニ細呂木村太郎左衛門と高出入之事も扱二仕相済くれ申様ニと、市郎兵衛・市郎右衛門色々申二付、然上ハ此出入扱申二をみてハ、右高九石之作徳米之内式俵を三俵迄之内、様子次第二年々畑ニ而も山ニ而も太郎左衛門ニ相渡、預り高作徳

さん用之義五六年も不仕候由、市郎兵衛預り三石式斗五升之分無算用、十右衛門預り高五石七斗五升之分ハ、十右衛門と相對ニ而太郎左衛門方算用仕候様ニと扱申度所存ニ候、此旨市郎兵衛合点ニ候ハ、金津三田村六右衛門殿へ參候而内談可仕候、六右衛門殿各別相違之事御申二候ハ、扱申間敷候、右之外少々相違有之候共扱之相談ニ可仕由申渡候へハ、右之通ニ而少々之相違有之候共扱ニ仕度由、何れ申二付罷歸り候

同廿五日

一 右西方寺村市郎兵衛口書并同人手錠之義御免被下候様ニと拙者書状、次ニ去御年貢之殘金三月晦日切之不足、四月廿日切之御割付金共ニ取立指上可申義ニ候へ共、(蚕飼)こかい・茶・桑共ニ未取入不申候間、五月中旬六月初迄御指可被下由、次ニ御廻米御入用銀ハ不殘三国ニ而齋藤久野右衛門様へ指上申段書状、市郎兵衛方を為持藤助様へ指上候、又右細呂木村六郎左衛門高出入之事扱ニ仕度由申二付、金津三田村六右衛門殿へ參内談仕、重而其趣可申上由申上候

一金津三田村六右衛門殿へ參、右細呂木太郎左衛門と出入高九石之下シ方相改候処、太郎左衛門・市郎兵衛年貢米之事数ヶ所有之二付、柿原十楽村五十郎・清王権兵衛・宮谷義太夫、近所之者共立合、大方之吟味を仕候処作徳米六俵余ならてハ無之候、其外跡々算用等之義右市郎兵衛ニ申聞候通申達候へハ、作徳米之義年々無

指引三俵ツ、太郎左衛門ニ相渡候様ニ仕、相濟申度由六右衛門殿御申ニ付、三俵迄相渡し可申とハ申間敷候、其思召ニ候ハ、右三人之者・庄屋市郎右衛門重而召連可參候間、其段々御申聞候様ニと申入候

四月廿六日

一昨日指上候書状之御返事、委細御書付被遊市郎兵衛手錠之鍵被遣候、并先日指上候細呂木太郎左衛門書付之写御返し被遊、請取御返書有、右書状之内ニ西方寺村ニ九人有之候百姓四人尻く、りニ仕、五人之名斗諸帳面ニ出し申由沙汰之限りニ候、其外村々ニも右之類有之候者吟味仕、高老升持申者ニ而名付出し申様ニと被仰越候

同廿七日

一西方寺村市郎右衛門・市郎兵衛呼寄、昨日鯖江<sup>はち</sup>被遣候御返事之内ニ手錠之鍵有之義<sup>はち</sup>相知申処、市郎右衛門不參小あるきニ為持遣シ候事不念ニ候と段々申聞、御返事読聞せ手錠を免シ、御封印共ニ相改請取置候、此度鯖江遣し候人足代組割・村割ニ不仕、市郎兵衛方<sup>も</sup>賃銀遣し候様ニ申渡し候  
一金津三田村六右衛門殿へ申達候扱之趣、市郎兵衛・市郎右衛門ニ申聞候へハ、何とそ右之通之扱ニ而相濟申度由申候

同廿八日

一青黒三才馬老疋 髪切 重義村五右衛門  
二ツ屋口通り手形奥判仕手形指上候  
一高三拾石五斗七升式合 舟津村五右衛門持高  
内式拾五石三斗五升 地割札老枚分

残五石式斗式升式合

内 壹石五升六合 市右衛門分取高

四石壹斗六升六合 源右衛門分取高

一舟津村伝七当月廿一日之夜麦を被盜候ニ付、其夜之村番権右衛門・又九郎・長七三人ニ御座候処、吟味仕候へハ此三人野番不罷出様ニ相聞候ニ付、右被盜候麦を積相弁候様ニと、庄屋長百姓申付候へ共承引不仕候由、清右衛門・孫右衛門參候而断ニ付、いつれも申付候通埒明候様ニと申遣候

同廿九日

一宮谷村義太夫申来り候ハ、一昨廿七日ニ金津三田村六右衛門殿<sup>も</sup>少用ニ候間罷出候様ニと被仰越候ニ付參候へハ、細呂木村太郎左衛門・柿原西方寺村市郎兵衛出入之事扱ニ可仕と大庄屋二郎左衛門と申合候処、太郎左衛門扱ニ仕間敷由申ニ付、何共難致候間其段二郎左衛門方へ申通候様ニと被仰聞候由申来り候

五月一日

覚

一 銀五匁式分

此米拾三俵 但壹俵二四分ツ、

右八午御年貢之内未春御廻米三国へ津出シ仕置、御船積之節繩俵色替ニ而船頭撰出し申二付、俵仕替賃銀請取三国ニ而払申候、以上

十楽村立合与三右衛門(印)

一 久野右衛門様被仰越候ハ、御廻船昨日切ニ不残出船いたし候、詠米証文之義追而可申遣由、去御年貢残下り之義稠敷鯖江被仰越候間、其段申付候様ニと被仰越候、御手紙後山村へ遣し申候  
一金津へ参三田村六右衛門殿へ御目ニ懸り候へハ、細呂木村太郎左衛門・柿原西方寺村市郎兵衛出入之事、扱二仕相済可申と内々申合候処、当廿七日ニ右之太郎左衛門・与頭中村又兵衛・細呂木庄屋藤右衛門共ニ呼寄候而、扱之段々太郎左衛門ニ申聞候へハ、只今迄壹ケ年徳作米四表程取来り候処、其作徳米減候而取可申分ハ出入不仕、其通ニ可仕由太郎左衛門申二付而、出入申分不仕候上ハ扱申ニ不及候と御申二付、太郎左衛門出入不仕候へハ何も之事ニ候と申罷帰り候

五月二日

一 久野右衛門様明日鯖江へ御帰り之由三国被仰越候ニ付、諸事御用ニ付権右衛門三国へ遣し申候

同三日

一 村々庄屋中呼寄候而、御年貢金之義其外御用共申付候  
一 舟津村麦番之者共呼寄、吟味仕候而証文取申候

同四日

一 笹岡村庄屋長百姓呼寄御年貢金之事委細吟味之処、一三日之内村中吟味可仕由断ニ候  
一 舟津村清右衛門山式ケ所・高老石書入之証文式通、二面村喜右衛門訴状之写壹通、松岡領上合月村与頭戸枝太左衛門書状指添遣し候を請取、重而返事可申之由二面村源右衛門へ断申遣し候  
一 重義村孫四郎申来り候ハ、当春出入相済候得共相定候縁組之沙汰無之、此節迄かやをもつらせ不申候、夜之目をふせり不申候得ハ昼之仕事不罷成候由、此上ハ鯖江へ被仰上被下候様ニと願候ニ付、口書を取太郎兵衛を召連庄屋中被参候様ニと配符遣し申候

同五日

一 重義村太郎兵衛気分悪敷候而不被参由ニ而妻参候ニ付、当春相究候通孫四郎と娘と縁組ハ何とて不仕候哉、其上時分ニ候処蚊屋つらせ不申候ニ付、夜之目をふせり不申候間、昼之仕事不罷成候と孫四郎申来り候由口書之段々申聞候へハ、縁組之義娘共合点不仕候、扱又かや之事孫四郎出入故質ニ置候ニ付、かやつり申度候ハ

、孫四郎請出しつり可申と太郎兵衛申候由、申捨ニ仕罷帰り候

同六日

一 右孫四郎參候ニ付母申候段々申聞、乍此上何とそかやをかり候而  
当夏中堪忍仕候様ニと色々申聞候へハ、かやをかりつり申手立も  
無之候、鯖江へ參候而御門外ニふせり罷有候而成共御訴訟可申上  
と達而申二付、当春指上候孫四郎訴状出入相濟候太郎兵衛書付、  
此度孫四郎指出し候口書、其上春中ハ之段々書状指添鯖江遣し候

一 二面村喜右衛門方ハ舟津村清右衛門高山を書入金子貸申候処、金  
子も相濟質物も相渡不申候ニ付、喜右衛門訴状之写、質物証文式  
通之写、并松岡領吉田郡上合月村与頭戸枝太左衛門書状を添遣し  
候ニ付、去春中ハ当春迄喜右衛門方ハ断ニ付、清右衛門段々吟味  
仕候得共何角と申、金子をも相濟不申質物も相渡不申候ニ付、此  
度又与頭方ハ断申越候ニ付、右書付共拙者書状指添鯖江へ指上候

一 細呂木村太郎左衛門・柿原西方寺村市郎兵衛高出入之義、扱ニ可  
仕と三田村六右衛門殿と内談仕候ニ付、其趣太郎左衛門ニ御申聞  
候処、只今迄畑方年貢山下シ米ニ而壺ケ年ニ四表余も取申候処、  
出入を仕懸候而三表ニ相究候事不罷成候間、此出入仕間敷由太郎  
左衛門申候と、六右衛門殿ハ口上ニ而被仰越候由鯖江へ申上候

一 西方寺村市郎兵衛ニ被仰付候手錠・鍵共ニ返進仕候

一 重義村孫四郎当春之訴状、同扱ニ而濟証文壺通

一 同人此度指出し候口書壺通

一 二面村喜右衛門訴状之写壺通

一 舟津村清右衛門高山質証文之写式通

一 与頭上合月村太左衛門書状壺通

右六通ニ拙者書状指添、藤助様・久野右衛門様へ明七日ニ重義村  
孫四郎持參仕候様ニと申渡候

一 重義村庄屋長百姓方太郎兵衛、右之扱をやふり候ニ付孫四郎參度  
由達而願候ニ付、遣し申由配符ニ而申遣し候

以書付奉願候

(石田代官)

馬場源兵衛様御代官所村々去午御口米之義、只今之相場米壺石ニ

付銀八拾壺匁を以金納仕度旨、石田領百姓石田御役所へ願候ニ付、  
右直段を以御払被仰付候、拙者共組下村々去午ノ御口米預り置候

金納ニ仕候へハ、百姓勝手能御座候間、石田領口米直段並を以、  
米壺石ニ付銀八拾壺匁之積り御払被仰付被下候様ニと奉願候、以  
上

元禄十六年未四月

坂井郡大庄屋三人判

大野郡同壺人判

今立郡同三人判

南条郡同壺人判

御役所

右之通判形仕平助方へ遣し候

覚

何村

一米何俵

何右衛門

一米何俵 何兵衛

一米何俵 何左衛門

合米何拾俵

右者去午御年貢米之内当春江戸御廻米被仰付候処、拙者共義人手間無御座候二付、手前二而御廻米仕立候得ハ耕作之妨ニ罷成候間、三国湊境屋甚右衛門方へ下米相渡、御廻米仕立させ申候、右之外少も誂米一切不仕、右誂米之儀ニ付毛頭申分出入無御座候、若何角申者御座候ハ、急度曲事ニ可被仰付候、為其如此ニ御座候、以上

午二月

何村庄屋

たれ印

同長百姓

たれ印

一米百九拾五俵前谷組誂米惣米高、此米村々吟味仕右案紙之通百姓耆人別ニ帳面出し候様ニと被仰付二候

五月七日

同八日

同九日

一昨七日ニ重義村孫四郎右之書付共為持鯖江へ遣し候へハ、孫四郎口書ニ御指紙を被添太郎兵衛ニ返答仕、当月十九日ニ庄屋長百姓鯖江へ参候様ニと被仰越候二付、則孫四郎重義村庄屋方へ遣し申候、舟津村清右衛門・二面村喜右衛門貸方出入ハ、清右衛門加判人孫右衛門共ニ当月十九日ニ、早々鯖江へ参候様ニと御書付被

遣候ニ付請取候

一久野右衛門様ハ御返事被遣候而請取、并ニ去午之納下り之義、大庄屋三人方別紙御書付被遣候

一去午之納下り前方申渡候日限之分いまた相納不申候、依之各願之通当月廿日頃迄指延申答ニ候間、其心得可有之候、面々組下へ右之通被申渡、当月廿日頃ニ前割不足之分急度相納申様ニ兼而可被申付候、以上

五月九日

坂井郡大庄屋三人方

齋藤久野右衛門

右之御書付并後山村権左衛門道中ハ遣し候書状共ニ、後山平介方へ遣し候

五月廿日切村々御金割之覚

一金貳兩貳分

前谷村

一金貳拾兩貳分

笹岡村

一金拾壹兩壹分

宮谷村

一金六兩三分

弥次兵衛

一金三兩三分

五十郎

一金四兩貳分

九右衛門

一金壹兩壹分

西方寺村

一金五兩貳分

清王村

一金五兩三分

赤尾村

一金貳兩

横垣村

一金拾六兩三分 井江葭村

一金拾兩 国影村

一金四兩三分 牛山村

一金貳兩三分 城村

一金貳分 新家

一金三兩 西谷村

一金拾八兩 舟津村

一金拾兩 十楽村

一金九兩三分 田中々村

一金七兩壹分 番田村

一金六兩 重義村

ノ金百五拾貳兩壹分

右者五月廿日切村々へ申触候

午年御口米壹石二付銀八拾壹匁宛

一金壹兩銀貳匁六分壹厘 前谷村

一金六兩壹分銀九匁八分三厘 笹岡村

一金五兩貳分銀九分七厘 宮谷村

一金三兩壹分銀拾貳匁八分五厘 弥次兵衛

一金壹兩貳分銀拾壹匁四分九厘 五十郎

一金壹兩銀拾貳匁五分 九右衛門

一金壹分銀三匁五分五厘 西方寺村

一金貳兩銀拾三匁八厘 清王村

一金貳兩貳分銀拾匁七分 赤尾村

一金三分銀拾三匁六分四厘 横垣村

一金七兩三分銀九匁壹厘 井江葭村

一金四兩銀壹匁四分四厘 国影村

一金貳兩銀九匁九分貳厘 牛山村

一金三分銀拾貳匁七分五厘 西谷村

一金七兩銀拾四匁三分貳厘 舟津村

一金三兩貳分銀五分貳厘 十楽村

一金三兩壹分銀九匁五分三厘 田中々村

一金貳兩銀拾三匁三分三厘 番田村

一金貳兩三分銀四匁五厘 重義村

合金五拾九兩三分銀七分九厘

右御口米代銀村々へ申触候

五月十日

同十一日

一栗毛三歳馬壹疋 髪切り すり額 清王村馬主甚右衛門

二ツ屋口通り手形

一鹿毛三歳馬壹疋 髪切 同村馬主九右衛門

細呂木口通り手形

同十二日

一舟津村へ参、清右衛門・孫右衛門・長百姓共ニ二面村喜右衛門方  
を訴状指上候二付、去年を之段々清右衛門ニ為申聞候訳、此度鯖  
江御役所を被遣候御書付相渡し申候  
一舟津村武兵衛屋敷之吟味仕口書取申候

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

一金五両滝谷町紀伊屋宗左衛門二貸、質物書入証文有

同十八日

一滝谷村新屋豊左衛門質物ニ取置候家居屋敷、請出し申事成不申候  
間相渡可申由納徳ニ而断有之ニ付、近日家内居屋敷之境目等相改  
請取候而、庄屋中・五人頭へも断可申候間、其節ハ豊左衛門同道  
被致候様ニと申合候

一重義村太郎兵衛妻申来り候ハ、明十九日ニ鯖江へ可参義ニ候得共、  
太郎兵衛氣分悪敷返答出来不申候ニ付、二三日指延申度由申候、  
然処孫四郎申来り候ハ、氣分悪敷事も無之、太郎兵衛八月代迄仕  
罷有候由申候

同十九日

一右太郎兵衛何度呼候而も不参、妻を以何角申二付一切埒明不申候  
ニ付、重義村へ参候て庄屋五右衛門方へ呼寄候得共、氣分悪敷と  
申不参候ニ付、太郎兵衛方へ参候へ八月代をそり氣分悪敷躰ハ少  
も無之候ニ付、当春相濟候通ニ仕、世間親子の躰ニ仕出入無之様  
ニと申候得共承引不仕候ニ付、然者早々返答仕鯖江へ参候様ニと  
申付候

五月廿日

一今日廿日切之請合金請取申候

一二面村喜右衛門方を、舟津村清右衛門ニ高山質物ニ書入させ金子  
貸置候出入之事、下ニ而相濟候ニ付喜右衛門証文・清右衛門証文  
取置候、喜右衛門証文ハ写書を鯖江へ指上候

同廿一日

一笹岡村宗左衛門・市右衛門、去々年巳冬・午夏迄御年貢方、其外  
市郎兵衛方へ市右衛門高代金相濟候金子之内ニ而相違有之と市右  
衛門申二付、及出入候故長百姓共立合吟味候□、扱ニ而相濟候ニ  
付宗左衛門・市右衛門扱人連判ニ而濟証文取置候  
一笹岡村御年貢金納不申候ニ付口書を取申候

同廿二日

一 午御年貢御取立元帳、坂井郡村々田畑反別帳、久野右衛門様を被遣候を後山村を持参二付請取置候、御取立元帳ハ写取可申事、反別帳ハ我々手前二有之候帳面と読合、相違無之様仕候様二と被仰越候、右御取立元帳ハ久野右衛門様へ便り二返し可申由、反別帳ハ舟寄善右衛門方へ遣し候様二と平助方を申来り候

一金壹両壹分 中川半兵衛を請取  
一金貳両 前谷市兵衛を請取、手形不渡

一 滝谷町新屋豊左衛門持分下豎町之家屋敷、質物二取置候処請出し申事不罷成候間、流し可相渡由豊左衛門断被申二付、今日源八を遣し家屋敷境目等相改、庄屋中五人組借宅主へも前谷二郎左衛門持分二成候由相断申候

同廿三日

一金百貳拾貳両壹分 内八両壹分悪金  
残百拾四両 久野右衛門様御手形  
一金四拾九両三分 未四月九日御手形  
右之金子并御手形共二請取、明廿四日鯖江へ持参仕指上、御通帳二付相渡可申候

前谷村  
源八郎 (印)

外

一金五両 封状之内二有、大柳太兵衛殿へ相渡可申候  
一二面村喜右衛門・舟津村清右衛門貸方出入、下二而相濟申二付喜

右衛門濟証文之写、此出入二付当十九日二清右衛門鯖江参候様二と被仰遣候御配符、藤助様・久野右衛門様へ指上候

一 重義村孫四郎・太郎兵衛出入、当十九日二返答持参仕候様二と被仰遣候処、返答出来不申候二付延引申候、近日可参由御断之事

一 西谷村伏木権八郎、上下男女五六人二て奥州若松へ引越参候二付、越後迄舟路二而参度候、舟路之御切手可被下候哉、御内意窺之事  
右御兩人様へ書状二而申上候

一 午御年貢残金取立之事、宮谷村金子拾両金津米屋助右衛門方を借候証文御裏判奉願候手形、次二伏木権八郎を被遣候書状、久野右衛門様へ以別紙申上候

一 上合月村太左衛門方を右二面村喜右衛門出入相濟候由書状指越候  
二付、返事喜右衛門方迄遣し申候

同廿四日

一 御金・右書状共為持源八鯖江遣し申候  
五月廿二日迄村々不足之覚  
一金三両貳分銀三匁分五厘 前谷村  
一金三拾壹両壹分銀拾匁壹厘 笹岡村  
一金拾貳両貳分銀貳匁九分七厘 宮谷村  
一金七両壹分銀八匁五分八厘 弥次兵衛  
一金四両銀四匁分七厘 五十郎  
一金貳分銀拾四匁三分八厘 九右衛門

一金壹兩貳分銀八匁五分壹厘 西方寺村

一金六兩三分銀五匁九分八厘 清王村

一金五兩貳分銀六匁四厘 赤尾村

一金壹兩三分銀拾貳匁三分九厘 横垣村

一金拾六兩貳分銀五匁四分八厘 井江葭村

一金拾壹兩銀六匁三分壹厘 国影村

一金四兩壹分銀三匁壹分六厘 牛山村

一金三兩貳分銀拾三匁三分七厘 西谷村

一金拾九兩貳分銀九匁五分四厘 舟津村

一金拾貳兩銀七匁八分貳厘 十楽村

一金九兩壹分銀拾三匁貳分七厘 田中々村

一金七兩壹分銀拾三匁八分八厘 番田村

一金五兩三分銀五匁五分三厘 重義村

一金貳兩三分銀拾三匁六分三厘 城村

一銀拾貳匁九分九厘 同新家

小以金百六拾九兩壹分銀壹匁三分六厘

右之不足書村々へ遣し、来ル六月五日切ニ皆済被致候様ニと申触候

五月廿五日

同廿六日

一金百拾四兩 久野右衛門様御手形

是八百貳拾貳兩壹分銀江へ持参仕候金之内、八兩壹分悪金ニ而返り候ニ付如此ニ候

一金四拾九兩三分 四月九日藤助御手形

是ハ藤助様御留主ニ而御書かへ無之候而右之御手形請取候

一金五兩 大柳太兵衛殿へ御手形請取

右ハ一昨廿四日源八鯖江へ参候処、掛屋十兵衛留主ニ而逗留仕今日罷歸り候

一金壹兩 此代金取 宮谷村

一金壹兩 此代金取 舟津村

一金壹兩 此代金取 田中々村長兵衛

一金壹兩 此代金取 十楽村

一金貳兩 此代金取 国影村

一金貳兩 此代金取 井江葭村

一金壹分 此代金取 番田村

八兩壹分

右悪金ニ而鯖江へ撰出し請取候

一二面村喜右衛門・舟津村清右衛門出入相済証文之写鯖江へ指上候処、御請取候而右出入ニ付諸書物最前指上候を御返し被成候

一重義村太郎兵衛返答御書付を相背、不参候段不屈之由被仰越候

一西谷村伏木権八奥州若松下り申度ニ付舟路之御切手願之義、御内

意承度旨申上候へハ、藤助様御留主故重而可被仰下由被仰下候

一宗旨御改帳早々指上候様ニと被仰越候

一未年村々御普請所相極候ニ付、御帳面村々写取候而、御普請竹木  
揃候ハ、普請仕形之義御指図を請可申由、尤此御帳面此方ニ而写  
取候ハ、後山平助方へ遣し候様ニと被仰下候、右之段々久野右  
衛門様を被仰遣候

シ申候

覚

一宗旨御改帳早々指上候様ニと郷助様を御配符後山村を参候、此  
方留りニ而指置候、但右帳面久野右衛門様へ指上候様ニと被仰下  
候

一重義村太郎兵衛返答延引之義吟味仕候处、同村庄左衛門参候而断

申候ハ、二三日御指延被下候ハ、何とそ扱候而相済申度断ニ参候

一当廿一日ニ前谷村清左衛門、(大宮茂富・福井藩金津奉行)大宮彦右衛門殿へ参、自分噂色々偽

申上候由宗休物語被仕候由、布目彦兵衛物語承候

五月廿七日

一宗旨御改寺判、清王村照嚴寺殿ニをみて六月三日・四日両日ニ取

可申由村々へ申触候

一鯖江を返り候金子之かハリ金、持参候様ニと村々へ申触候

一午御年貢不足金、早々取立被申候様ニと村々へ申触候

同廿八日

一久野右衛門様を被遣候村々反別帳、此方ニ有之帳面読合候处、宮

谷村上田之斗代少、西谷村田之歩少違有之ニ付、附紙をいたし候

而右之御帳面舟寄善右衛門方迄村次ニ相届候様ニと、清間村迄遣

一金壹両三分

前谷村

一金八両

笹岡村宗左衛門

一金三両三分

同村市右衛門

一金六両壹分

宮谷村

一金三両三分

青野木弥次兵衛

一金貳両三分

同村五十郎

一金壹分

同村九右衛門

一金三分

西方寺村

一金三両

清王村

一金貳両三分

赤尾村

一金壹両

横垣村

一金八両三分

井江葎村

一金五両三分

国影村

一金貳両壹分

牛山村

一金壹両

城村

一金貳両

西谷村

一金拾両三分

舟津村

一六両三分

十楽村

一金四両三分

田中々村

一金四両

番田村

一金三兩

重義村

一舟寄村善右衛門被參候而諸事相談仕候

ノ金八拾壹兩三分

右者去年御年貢金不残来五日切ニ取立、相済被申候様ニと最前申

同三日

触候得共、見懸夏(蚤飼)こかい指置、高利之金子借立させ申義難義ニ存

一今日ノ明日迄坂井郡三与共ニ清王村照嚴寺ニ而宗旨御改寺判取申

候ニ付、来五日切ニ右之通取立指上候而、相残分ハ来廿日ニ御皆

候

済可申上由御訴訟申上、夫とても是非共皆済仕候様ニと被仰付候

ハ、其節百姓潰候共恨有間敷と存右之通申遣候

同四日

右之趣後山平介と相談之上申触候

一寺判大方仕廻何れも罷帰候

一下新庄村福岡平左衛門方ノ、当六日ノ鯖江ニ而大割仕候間、五日

同廿九日

ノ罷出候様ニと申越候得共、我等義当五日切之御金請取申ニ付不

一重義村へ參、太郎兵衛義早々返答指上候様ニと申付候へハ、庄左

被參候故、宮谷村義太夫五日ニ參候様ニと申渡候

衛門・太郎兵衛妻罷出申候ハ、孫四郎と娘縁組仕相済申度候ニ付

一藤助様ノ御年貢金之義ニ付村々へ御廻状壱通、我等方へ壱通被遣

及延引候由申ニ付、然者早々相済御断申上候様ニと申候

候ニ付、村方へ之御廻状ニ添仕早々村々へ遣し申候、当五日切ニ

急度相渡候様ニと被仰越候、御書付有之候

五月晦日

同五日

一久野右衛門様ノ御手紙被遣候ハ、伏木権八殿奥州若松へ引越被申

一藤助様ノ去午御年貢金当日を限皆済不仕候村者、庄屋長百姓鯖

二付、越後迄舟路願之事只今迄例無之候ニ付、相叶申間敷由被仰

江へ早々指越候様ニと堅被仰付候御書付、舟寄ノ村次ニ而參候、

越候ニ付、幸権八殿ニ御目ニ懸候故右之様子申入候、次ニ南都勸

請取置候

化銀之義取立さへ仕候へハ能候由被仰越候

六月一日

同六日

同二日

一村々庄屋長百姓呼寄、藤助様被仰越候段々申渡候処、何れも十日

二皆済可仕由請合被申候

一重義村太郎兵衛・孫四郎出入之事、同村庄右衛門(媒力)□二而太郎兵衛

妹娘を孫四郎妻二仕、出入申分無之相済申段断有之二付、太郎兵

衛・孫四郎証文取置申候

一金七拾壹兩壹分銀八匁八分九厘

内拾七兩 小手形二而通帳二付

五拾四兩壹分八匁八分九厘

同七日

一鯖江二而大割御用、其外御年貢金之義二付鯖(江脱)へ參候

一金八拾壹兩壹分藤助様へ指上候、未四月九日二金四拾九兩三分

藤助様御小手形、五月廿五日金百拾四兩久野右衛門様御小手形、

三口金合式百四拾五兩御通二付請取候

一金式拾四兩未三月六日御廻米入用銀、三国二而久野右衛門様へ

指上候御小手形、同金拾七兩壹分銀拾壹匁分式厘、未四月六

日二御同人へ三国二而指上、式口合金四拾壹兩壹分銀拾壹匁壹

分式厘藤助様御書かへ手形請取

一当春笹岡村清右衛門・利兵衛出入、下二而相済候証文拙者方二預

り置、写二拙者判形仕指上候

一重義村太郎兵衛・孫四郎親子出入相済候二付、証文御披見二入拙

者方二預り置候、右兩人当春之出入孫四郎訴状・扱証文共二右太

郎兵衛申破り、重而又孫四郎御訴訟二出候二付、当春之訴状・扱

証文御役所へ五月七日二指上置候処、出入下二而相済申二付指上  
置二付、御返し可有之処紛失仕候故御返し無之候

一御年貢金之義当日切二申付候、其内前々五日七日之延引ハ先其  
通被成被下候様二と申上候

六月八日

一金式兩式分銀拾式匁八分、与下村々当未年御普請扶持代銀御年

貢金二指上、藤助様御手形請取候

一銀四百九匁四分、前谷村清左衛門酒運上銀、此金六兩三分銀四

匁四分、早々指上候様二と被仰付候

一西谷村伏木権八郎殿奥州へ引越申度願二付、願状之案紙・通手形

之案紙申請候、其外御用仕廻候二付罷帰候、御暇乞申上候

一御年貢金之義二付当日二与下村々へ被遣候藤助様御廻状、村々

廻シ候二付返進仕候

一重義村孫四郎訴訟書付返答被仰付候、御付紙返進仕候

一去午ノ年夏冬兩度鯖江大割・組割之帳面御役所持參仕御目二懸候

へハ、成程能候間此兩度合立帳壹冊二仕、拙者判形二而指上候様

二と被仰付候、善右衛門・平介二も申聞候様二と被仰付候

一去午年御取立元帳先日御貸候二付写取、本帳久野右衛門様へ返進

仕候

一伏木権八郎殿奥州へ引越被申候願状・通手形之案紙被遣候

同九日

一 宮谷村義太夫・拙者共二、昨日切鯖江大割其外御用共埒明候ニ付  
今日罷帰り候

一 去午御年貢米之内未春御廻米誂米之分相改判形を取、帳面久野右  
衛門様へ指上候

未春御普請人足御扶持代銀之覺

一人足貳拾貳人 笹岡村

此扶持米壹斗壹升 壹人ニ五合ツ、

此代銀七匁四分九厘 但壹石ニ六拾八匁五厘

一人足百拾貳人 井江葭村

此扶持米五斗六升

此代銀三拾八匁分壹厘 六月廿六日ニ渡

一人足百六拾九人 重義村

此扶持米八斗四升五合

此代銀五拾七匁五分

一人足八拾貳人半 十楽村

此扶持米四斗壹升貳合五匁

此代銀貳拾八匁七厘

一人足九拾三人 新家

此扶持米四斗六升五合

此代銀三拾壹匁六分四厘

合人足四百七拾八人半

此扶持米貳石三斗九升貳合五匁

此代銀百六拾貳匁八分壹厘

右者藤助様を請取右村々相渡、手形壹紙ニ而取置候

同十日

同十一日

同十二日

同十三日

一 銀貳匁七分五厘 宮谷村指引残預り

同十四日

一 銀七分六厘 青野木村弥次兵衛を預<sup>(りカ)</sup>

一 銀貳匁分四厘 国影村を預り 此銀牛山村へ相渡ス

一 銀壹匁分貳厘 横垣村

一 銀壹分五厘 赤尾村

一 銀貳分七厘 清王村

一 五匁五厘 宮谷村共ニ

一 未夏鯖江大割・組割、組中庄屋長百姓立合吟味之上相濟申候

一 御年貢金請取申候

一 未ノ年御普請人足扶持村々渡証文判形取申候

一 銀拾六匁九分九厘 午暮・未春中札紙代

一 銀拾貳匁分 新熊野奉加銀

一 銀三拾八匁五分 葉代

ノ六拾七匁六分九厘

一 金百四兩貳分銀壹匁八分七厘 六月十四日迄

一金貳分 同西方寺村小手形

一金壹兩壹分銀貳匁五分八厘 同包ちん銀之内

ノ百六兩壹分銀四匁四分五厘

右十四日取立相違無之候

同十五日

一 笹岡村御年貢金滞候ニ付段々申聞候処、明後日調申訳儘ニ相知せ

可申由申候

覚

金六拾九兩貳分 午御年貢金

金壹兩壹分 包ちん金

右之金子儘ニ請取鯖江へ指上、御手形ニ而相渡可申候

六月十五日

前谷村  
源八郎 (印)

一金百三拾九兩壹分銀貳匁七分五厘

六月十二日迄

内

六拾九兩貳分

右之金子

三拾貳兩壹分銀拾壹匁三分 村方

拾五兩

村方

拾兩貳分

宗左衛門・二郎兵衛・弥二兵衛

三兩壹分余

有金

ノ百三拾兩三分

残  
八兩貳分

六月十六日

同十七日

覚

一 高壹石九斗五升九合

清王村高主  
新兵衛

一 高八石七斗八升四合

青野木村分同人持高

銀百九拾六匁九分貳厘

午御年貢御廻米、小物成銀共ニ

米七石貳升 金津惣兵衛・清王村權兵衛おかり米

銀三百貳匁八分六厘

右同断

右之通午御年貢小物成不納并ニ借米・借銀有之候ニ付、清王村・

青野木村持高当年亥十月迄五年季ニ御高同村權兵衛ニ預ケ候、

但代米・代銀大分ニ付右之銀子ニ壹ケ年ニ壹割半、米ニ三割之加

利足、元利を以高請出シ可申定之証文ニ拙者奥判を仕、權兵衛ニ

相渡候、本証文之写有

一 源八昨日鯖江へ御金持参仕今日罷帰候、未年宗門御改帳も久野右

衛門様へ指上候

一金六拾七兩貳分

藤助様御手形請取

一金壹兩壹分

かけや十兵衛手形

一金貳兩

悪金ニ而請取

内

壹分 赤尾村

壹分 横垣村

壹兩 牛山村

貳分 十楽村

右之通指引相濟候

六月十八日

同十九日

一 笹岡村御年貢金之義ニ付参候而段々申聞罷歸り候

同廿日

一 笹岡村・舟津村・西谷村納下り之義ニ付段々詮義仕候

同廿一日

一 鹿毛四歳馬壹疋 番田村久左衛門

一 栗毛四歳馬壹疋 同人

右ハ板取口通り手形奥判仕候

一 細呂木村太郎左衛門申来り候ハ、西方寺村ニ而自先年作来り候畑

貳ケ所市郎兵衛立入作仕候、其外々太郎左衛門手作之畑方茶・桑

こき取、山も貳ケ所市郎兵衛方ハ木柴切取候ニ付、我儘不仕候様

ニと断申ニ付、右之市郎兵衛義何様ニ申候而も承引不仕候へハ、

同廿七日

其方ハ訴訟仕ハ外之事有間敷候、乍其上右断之義為申聞由太郎左衛門ニ申渡候

一 郷助様御老母様御死去ニ付、当村市兵衛者昨日鯖江へ遣し今日罷歸り候

同廿二日

同廿三日

同廿四日

一 井江葎村万右衛門、昨廿三日之夜四ツ時分ニ自火家焼失仕候由申来り候ニ付、庄屋長百姓口上書を取、井江葎村ハ鯖江へ為持指上候、留書有

一 西方寺村市郎兵衛参候ニ付、細呂木太郎左衛門断之段為申聞候へハ、桑・茶之事、山之木柴切取候事共不存候と申候

同廿五日

一 北金津若藤屋弥次兵衛取立之頼母子講ニ罷出候、委細貸方帳ニ書付置

同廿六日

一 村々残銀指引算用仕金子請取候

同廿七日

一舟津村清兵衛申来り候ハ、私義去年ハ御高式石八斗持候処、当夏迄指引残万割銀之由ニ而、銀八匁八分庄屋清右衛門取申ニ付、何様之銀ニ候哉、訳立不申候ニ付様子聞届申度と申候得共、不申聞候ニ付被仰付可被下候、又是ニ而不被仰付候ハ、是ハ直ニ鯖江へ参候と申ニ付、定而子細無之銀子を理不尽ニハ取申間敷候、吟味仕候ハ、訳も可有候、然共其村ニも不足金有之ニ付、只今取立申事ニ候得ハ庄屋長百姓呼寄申義も当分ハ不罷成候、其内様子吟味可仕候間、鯖江へ参候事ハ相待候様ニと再三申聞候得共、是非共可参由申ニ付、其上ハ心任ニ仕候様ニと申候

一笹岡村市右衛門殘金之事、二三日相待くれ候様ニと申ニ付、当月切ニ相濟候様ニと堅申渡し候

覚

一金八拾三兩壹分

右之金子慥請取申候、鯖江へ指上御手形を以相渡し可申候、以上

六月廿七日

源八郎(印)

外

一金壹兩貳分札銀貳百拾匁、福居大柳太兵衛殿へ相渡し可申候、御手形取相渡し可申候

一宮前村・玄女村・柵村・重義村・舟津村御檢地被仰付候、就夫被仰付御用之事有之候間、右村々庄屋召つれ明廿八日ニ鯖江へ参候様ニと、久野右衛門様・園右衛門様ハ御廻状被遣候ニ付、後山ハ参候故重義村迄前谷村之人足式人ニ而夜通しニ遣し申候、自分名

代ニ権右衛門遣し候ニ付御廻状返上為致候

六月廿八日

一権右衛門右御用ニ付鯖江へ遣し申候

一源八御金持参仕候ニ付久野右衛門様書状を以申上候、井江葭村万右衛門小屋懸ケ為仕申度由、次ニ舟津村清兵衛昨日之段々不殘書付指上申候

当山方諸山伏如古法新規非例不可有之者也

三宝院御門跡当山役所

諸国惣袈裟頭

二諦坊法鳳閣寺

元禄十六年 戒定院

未正月日

覚

一当山方山伏ハ向後判鑑所持候而勸進仕筈ニ候、則判鑑写遣候間村々庄屋手前ニ写置、右判鑑令所持候山伏ニハ面々心次第勸進入候様ニ可被申触候、以上

未六月廿三日

山本沢右衛門印

斎藤久野右衛門印

青山藤助印

前合村  
大庄屋二郎左衛門殿

右御書付六月廿三日之日付ニ候処、今日舟寄村ハ持参ニ候処、延

引之義使者二相尋候得共相知不申候、指而御急用ニ而無之候ニ付  
其通ニ仕村々触出候

同廿九日

同晦日

一金八拾三両壹分 源八郎鯖江持參金

内

五拾九両三分銀九分三厘 午御口米代

式拾壹両壹分銀拾四匁七厘 午御年貢

残 八拾貳両壹分

金壹両 悪金ニ而返ル

内式分井江葭村、壹分清王村、壹分田中々村才兵衛

右八権右衛門・源八共ニ今日鯖江<sup>方</sup>罷歸り候ニ付、指引相濟御手

形請取候

一金壹両式分札銀貳百拾匁、大柳太兵衛殿へ相渡、手形有

一権右衛門・舟津村清右衛門・重義村五右衛門召連候而、御陣屋ニ

而檢地之義段々被仰渡、田畑共ニ案内帳を仕指上候様ニと被仰付、

何れも罷歸候

一舟津村清兵衛、久野右衛門様迄參様子申上候ニ付久野右衛門様被

仰聞候ハ、少之義ニ付是へ參候事不届千万ニ候、夫とても出入ニ

可仕事ニ候ハ、書付を以大庄屋取次ニ而可□□由被仰付候而、

御返し候由被仰越候

一銀七拾貳匁四分四厘

田中屋書出

一銀四拾匁四分

八万屋書出

一銀拾九匁四分

彦五郎書出

七月朔日

同二日

一重義村・舟津村庄屋長百姓中被參候ニ付、御檢地之義案内帳之

段々申渡候

同三日

一源八大野郡へ内用ニ而參候由申ニ付、比嶋藤左衛門・猪嶋村次兵

衛方へ書状遣シ候

同四日

同五日

一源八罷歸候ニ付次兵衛方<sup>方</sup>返状參候

同六日

同七日

同八日

一出村新屋豊左衛門、質物流家之口錢取可申由同所庄屋中申越ニ付、  
質物流家ニも口錢出し申答ニ候哉相尋候へハ、出村作法ニ而取申

由申ニ付銀式拾四匁相渡、手形有

同九日

覚

一銀壹貫六百五拾七匁四分式厘 前谷組

右ハ去午御年貢米之内当春江戸廻米御蔵詰仕廻納庄屋罷歸り候、未勘定不相濟候得共御蔵前ニ而引取米払代金式百兩余有之候、此砌未進皆濟之節百姓共及難義候由先達而被申聞候ニ付、廻米壹石ニ付式匁ツ、之積を以先右之金可相返候間、其方手形を以金子請取村々へ割渡可被申候、殘金之義ハ追而勘定埒明候節可相返候条、其心得可有候、以上

七月七日

青山藤助 印

坂井郡大庄屋三人

追而申遣候、本紙ニ申遣候通今年江戸御蔵詰欠米無之、過分之引取米有之候、勘定相濟候ハ、壹石ニ付三匁三分村々へ可相返哉(精)と存候、就夫納庄屋共も情ヲ出し別而骨折候、増給金壹人ニ付四兩か五兩程かとらせ被申可然哉、尤石田役人中へも可承合候得共、石田納庄屋ハ遅ク罷歸り候、先大躰ニも何程とらせ可然旨、大庄屋中連判書物被指出候ハ、其上ニ而石田手代中へも相談可申候、其元ニ而各願書被相認令判形、殘大庄屋名印仕候横白紙つき立可被指越候、外大庄屋へハ此方右之書物相届判形取之可申候、以上

七月七日

坂井郡大庄屋三人

青山藤助 印

右ハ納庄屋後山権右衛門罷歸候ニ付、右之御状被遣候由ニ而後山村參候ニ付、是右村次ニ而舟寄へ遣し候

七月十日

乍恐以口上書申上候

一去午御年貢米之内当未ノ年江戸御廻米為納庄屋と、今立郡戸口中村彦左衛門・坂井郡後山村権右衛門此兩人被遣候処、御廻船も早々江戸着仕、御蔵前納方欠米も少分ニ而早速相濟候義、右兩人別而骨折之旨承及候、然処右之者共当春江戸へ罷越候節者当暮中迄逗留可仕支度ニ而參候処、此節罷歸候とて耕作之間ニもはつれ候へハ別而迷惑之段申聞、尤之様ニ奉存候、増給金壹人ニ四五兩程ツ、御とらせ可被下候哉、右兩人共ニ同御代官所之百姓ニ御座候へハ、たおれ不申候様ニ御了簡被遊可被下候、右之段々村々百姓中へ申聞候共異背可申義とハ不奉存候ニ付、口上書を以申上候、以上

元禄十六年未七月十日

善右衛門

二郎左衛門 印

平 助

右之通願書認後山村平助方へ遣し候、舟寄遣し善右衛門判形を取、鯖江被指上候様ニと申遣し候

請取申金子之事

合金式拾七兩式分銀七匁四分式厘

此銀壹貫六百五拾七匁式厘

右者去午ノ御年貢米之内当未ノ年江戸御廻米被仰付候為入用金と、  
当春指上候金子を以中勘定被成候へハ過金有之二付、先右之分御  
返シ被下慥ニ請取申候、組下村々御廻米壹石ニ付銀式匁ツ、之積  
り相渡可申候、重而本勘定相極候節村之庄屋判形を取、当春之御  
手形共二指上可申候、其節此手形と御引かへ可被下候、以上

元禄十六年未七月十一日

前谷村大庄屋

次郎左衛門 印

青山藤助殿

右御廻状ニ而被仰下候ニ付手形認指上候、留如此ニ候

覚

一金式拾式兩三分

請取

一札銀百式拾五匁

請取

此払方

金拾壹兩

御年貢金

金三分

包賃金

金五兩壹分銀七匁四分

大割銀

金式兩三分銀八匁八分四厘

川除割

金式兩式分拾壹匁八分四厘

内割銀

金壹分銀四匁四分

彦五郎

金三分

八まん屋

金壹兩

田中屋

残

ノ式拾四兩三分銀式匁四分八厘

銀式匁五分式厘

外

金式兩

大柳太兵衛殿状之内ニ有

右之金子慥ニ請取候、方々払御手形を以相渡シ可申候、以上

外

金式拾七兩式分銀七匁四分式厘

戻り金手形指上金子請取相渡可申候

七月十日

源八郎 (印)

一若藤屋弥次兵衛去暮貸金五兩之手形を返シ、外金五兩当分取かへ  
候□□と手形遣シ候へハ金拾兩被指越候、手紙ニ而申越候ハ、五  
兩者<sup>(去)</sup>□暮貸金、式分ハ利足、残四兩式分取かへ之手形參候ニ付指  
置候、右之金子返済之節四兩式分返し候様ニと被申越候

七月十一日

一御金持參ニ付源八郎鯖江へ參候

細呂木口罷通女請状之事

一五十三歳女老人 髮切 駕籠乗物

一九歳女老人 髮切

ノ式人

右者坂井郡西谷村ニ罷有候本多飛驒様御家来伏木権八郎と申者之

母并娘二而御座候、今度奥州若松平肥後守様御家来津田刑部右(松平正容・会津藩主)衛門方迄引越度旨奉願候二付、吟味仕候処疑敷義無御座候、細呂

木口罷通候御手形可被下候、若右之女共二付出入申分於有之二ハ

拙者共急度可申披候、為後日如此二御座候、以上

元禄十六年未七月十二日

坂井郡西谷村庄屋

五郎右衛門 印

同

次 兵 衛 印

長百姓

新右衛門 印

鯖江

御役所

口上之覚

拙者父伏木五太夫義本多飛驒家来二而御座候処、九年以前亥年浪人仕御代官所坂井郡西谷村二住居仕候処、五太夫義去午十月病死仕候、就夫二松平肥後守様御家来津田形部右衛門ハ拙者親類二而候二付、形部右衛門方へ引越候様ニと申越候、則肥後守様御城下奥州若松右形部右衛門方へ拙者義母娘召連此度引越申候、依之御断申上候、以上

元禄十六年未七月十一日

伏木権八郎 印

鯖江

御役所

右両通之書付権八郎方ハ為持鯖江へ指上させ申候

同十二日

一金壹両三分銀三匁 前谷村源八郎

是八日用銀其外与へ取かへ銀請取

覚

市兵衛 (印)

一金壹両三分銀拾匁

前谷村

一金三両式分

笹岡村宗左衛門

一金五両壹分銀九匁

同村市右衛門

一金壹両式分銀拾三匁三分七厘

西谷村

一金三両

舟津村

金拾五両壹分拾式匁五分六厘

一昨十一日二源八二相渡候目録之通方々へ金子相渡、手形・悪金等

請取指引相濟申候、但戻り金も手形之通無相違請取申候、源八今

日罷歸り候二付如此二候

一割銀之義二付御仕置書壹通被遣候、村々百姓為申聞、庄屋長百姓

判形為指上候様ニと被仰越候

一去午年御免状村々取集御役所へ可指上候、御加免之免状と御引か

へ可被成由被仰越候

右之御書付舟寄村ハ村次ニ参候、同後山へも参候二付村次ニ而遣し

申候

同十三日

一金七両式分銀六匁式分六厘 戻り金相渡

内

壹分拾式匁五分六厘

横垣村判不取

四兩三匁四分四厘 井江葭村

貳兩銀壹匁七分貳厘 国かけ村

壹兩三匁五分四厘 牛山村判不取

右之金子井江葭二郎右衛門・国影茂左衛門ニ相渡

一銀拾三匁七分四厘 惣包ちん銀之内

不足之由かけや十兵衛お申越候

七月十四日

一未春御廻米戻り金今日村々へ相渡申候

同十五日

同十六日

一重義村へ参候而御検地案内帳早々仕立申様ニと申渡候

一金津三田村殿へ参、先日細呂木村太郎左衛門参候段御断申候へハ、

六右衛門殿へハ何之断不申候ニ付、何共御申越無之由被仰聞候、

重義村検地之義ニ付而北金津地境ニ立合ニ罷出候様ニと御内意申

入候

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

一舟津村へ参案内帳早々仕立候様ニと申渡候

同廿二日

同廿三日

一銀九匁 前谷村未春御廻米戻り銀之内市兵衛ニ相渡、無手形

同廿四日

一村々庄屋・長百姓・小百姓之内五六人呼寄、割方御法度之段々堅

申渡候

一去午年村々御免状請取申候

覚

一金八兩半切 午ノ御年貢金之内

一金壹分 包ちん金

一金貳兩 丸岡庄右衛門へ可渡金

右之通請取申候、渡御手形を以相渡可申候

一金貳兩貳分拾貳匁八分 六月八日御手形

一金六拾七兩貳分 同十六日御手形

一金貳拾貳兩壹分拾四匁七厘 同廿八日御手形

一金五拾九兩三分九分三厘 同日御口米代銀

一金九兩三分 七月十一日御手形

右之通請取鯖江持参仕候

外

源八郎(印)

一 右御法度書迄通、村々午御免状拾八通請取鯖江へ指上可申候

同廿五日

一 源八鯖江へ参候

同廿六日

一 重義村・舟津村へ御檢地之義ニ参候

一 源八鯖江を罷歸り候、藤助様・久野右衛門様御留主ニ而、金七兩

三分園右衛門様へ指上手形請取申候、午御免状・御法度書共ニ園

右衛門様へ指上罷歸り候

七月廿七日

一 久野右衛門様大野郡森目村を被仰越候ハ、此度之洪水ニ田畑共ニ

損亡於有之ハ、例之通反別之帳面大積りニ仕立早々陣屋迄可指上

候、次ニ御普請所有之村々早々仕立可申候、来月一日・二日頃ニ

当郡へ御越候而御改可被成之由被仰越候、御書付有、右御ふしん

所有之村々へ早々申遣し候

同廿八日

一 星鹿毛三歳馬壹疋、髮切 清王村 権兵衛

一 黒毛三歳馬壹疋 同 同人

右ハ板取口通御手形奉願候、八月一日

口上書之覚

六月廿八日之水、当月十九日ハ廿一日迄之風、同廿二日・三日兩

日之大雨ニ而田畑水いかり、田方者穂之出懸りニ御座候処先出ハ

枯穂ニ罷成、畑方者諸作共ニ大分痛申候、併田畑共ニ皆損と可申

場所も無御座、尤村々ニ少宛者皆損躰も御座候得共、帳面ニ仕立

可申程之義も無御座候、惣様田畑痛相見へ申処、与下村々を御注

進申上候ニ付如此ニ御座候、以上

未七月

前谷村大庄屋

次郎左衛門 印

御役所

右ハ舟寄・後山ハ村々庄屋長百姓判形ニ而指上申由ニ候得共、指

詰り候ニ付拙者口上書指上候、後山村を人参候ニ付言伝申候、久

野右衛門様御留主之由ニ候処、園右衛門様・郷助様へ指上候、無

別紙留候

同廿九日

一 重義村・舟津村へ参候而、案内帳早々仕立候様ニと申渡し候

一 重義村・十楽村御ふしん所早々仕立候様ニと可申付候

八月朔日

同二日

一 右水損・風損之書付并拙者書状共ニ玄女村の鯖江へ指上候へハ、  
園右衛門様・郷助様の御返事被遣候

同三日

同四日

同五日

一 午御未進持候百姓高付・未進付帳面ニ仕立、其村庄屋其百姓共ニ  
早々鯖江へ遣し可申候、明六日ニ遣し候様ニとの御廻状被遣候ニ  
付、写置候而後山へ遣し候、未進有之村々へ右之通早速申遣し候

同六日

一 右御未進金之義其外午御免状ニ御加免御載候間、慥成者取ニ遣し  
候様ニと被仰越候ニ付、権右衛門を鯖江へ遣し申候、取立金拾壹  
両遣し申候

一 右御未進金之義吟味仕候

同七日

一 新家次兵衛と申者倅仁兵衛兼而不届者ニ候処、八年以前子ノ年江  
戸へ参候を幸と奉存通路も不仕指置候処、当七月一日ニ江戸の罷  
歸り候ニ付、勘当仕ニ日ニ追出し候由断申来り候ニ付、書付指上  
候様ニと申渡し候

一 権右衛門鯖江の罷歸候、御年貢残金之義者早々取立可申候、重義

村・舟津村田地案内帳之義、当日頃ニ御役人様方玄女村へ御越  
可被成候間其節可指上候、御増免御書載之御免状拾八通御渡候ニ  
付、請取判形指上申候、藤助様ハ近日能州へ御越可被成由ニ候  
一 重義村案内帳六日ニ持参仕候処、帳面之内少悪敷候ニ付御返し被  
成右之通被仰付候

八月八日

一 久野右衛門様、村々御普請出来方為御改大野郡の今日舟寄村へ御  
越被遊候、明後日時分此方へ御越可被成候間、村々御普請所早々  
仕立候様ニと舟寄村の御手紙被遣候

同九日

一 藤助様今日舟寄村へ御通り候て能州へ御越之由

同十日

一 御検地御役人園右衛門様并石田中川浅右衛門様・古田六郎右衛門  
様、玄女村迄御越被成候

同十一日

一 久野右衛門様御普請所御改ニ御越被成候而、後山村の今日自分方  
ニ御泊り

同十二日

一 久野右衛門様笹岡村御普請所御改候而井江葭村御泊り之筈ニ候、御送り之馬笹岡村、御荷物人足耆人宮谷村、耆人青野木村お遣し候、御雑用钱百文御渡請取申候

一 重義村庄屋長百姓・舟津村庄屋長百姓召連玄女村へ参、園右衛門様・中川浅右衛門様・古田六郎右衛門様へ御意得候、但重義村案内帳少之違有之ニ付相改、重而指上可申旨申候、舟津村案内帳未書立不申候間重而指上可申旨御断申上候、右之村深田ニて竿難義之由書付指上罷歸り候

同十三日

同十四日

一 久野右衛門様昨十三日井江葭村御立被成候、馬耆足井江葭村、人足耆人横垣村、耆人牛山村お罷出候

同十五日

同十六日

一 玄女村御檢地御役人様へ権右衛門遣し申候

同十七日

同十八日

一 大雨晴間なくふり続申候

同十九日

一 明八ツ時分お南風、日之出お大風ニ成、昼お西大風ニ成候、水大分出申候

同廿日

一 久野右衛門様能州御越被成候ニ付金津へ罷出御意得、大風・大水ニ而田畑立毛損亡仕候由申上候  
一 村々お立毛損亡之義訴有之ニ付、立毛色付田畑反歩百姓耆人別之帳被指出候様ニと村々へ申渡候

八月廿一日

一 十九日大風・大水ニ而立毛損亡之由、村々お蕎麦・粟・大豆等取訳痛候物之分、帳面ニ記指出候ニ付請取置申候

同廿二日

一 柵村御檢地ニ付御役人様当村ニ御泊り、園右衛門様・郷助様、同御家来式人、竿取鯖江門兵衛・彦六、御賄方同村八平、上下七人二郎左衛門方ニ御泊り、石田中川浅右衛門様・同古田六郎右衛門様、同家来式人、竿取石田太右衛門・舟寄喜右衛門、上下七人清左衛門方ニ御泊り、塩・噌・薪・野菜等柵村お持参仕諸事相勤申候

同廿三日

一園右衛門様・郷助様へ(早稲)わさ方風損之由申上候へハ、是も反歩改帳  
面取置候様ニと被仰候ニ付村々へ申遣し候

同廿四日

同廿五日

同廿六日

一右柵村御検地昨日切ニ相済候ニ付、今朝御役人衆御立候而宮前村  
へ御越被成候

同廿七日

一栗毛三歳馬老疋 髮切 西方寺村 市郎右衛門

一鹿毛六才馬老疋 同断 同人

右ハ板取口通り手形奥判仕候

一最前藤助様被仰渡候ハ、殿様能州の御登り之節坂井郡検地御覽被  
遊事有之候間、御検地村之近所ニ而御宿支度仕置候様ニと被仰付  
候ニ付、田中々村才兵衛方ニ而支度為致候ニ付、今日善右衛門・  
平介・我等共ニ宮前村ニ而対談仕、御検地為御覽之御泊り被遊ニ  
をゐてハ、人馬其外何ニ而も入用之事有之候ハ、五ヶ村として  
等分割ニ而相勤可申申合候ニ付、右相談之趣園右衛門様・郷助  
様へも御断申上候、則為立合善右衛門与下の谷畠村武兵衛を出し  
可申由、平助与下の清間村奥左衛門を出し可申由ニ候

同廿八日

一殿様能州昨廿七日ニ御発駕之由人馬先触参候由ニ而、金津玉屋市  
右衛門方も重義村迄申越候

一谷畠村武兵衛田中々村へ参候ニ付善右衛門被申越候ハ、夕へハ五  
ヶ村等分割ニ而人馬以下御用物相勤可申由申合候得共、宮前村之  
者高割ニ可仕由申候ニ付高割ニ可仕由被申越候ニ付、田中々村才  
兵衛并我等右武兵衛ニ申越候ハ、御泊り之節人馬其外たれくの  
入用者家人存知之事ニ候へハ、何れも相談を以検地村等分割ニ可  
仕由夕へ相談相極候処、今又高割ニ可仕と善右衛門被申越候事何  
共難心得候、惣而御泊り以下入用割ニ仕候事ハ御法度ニ候へハ、  
何ニ而も田中々村として相勤外へ割ニハ仕間敷候、然上ハ立合も  
入不申候間、武兵衛義ハ被帰候而此段善右衛門ニ被申候様ニと返  
事申遣候、然処へ藤助様能州の被仰越候ハ、御検地村へハ御寄不  
被遊明廿九日舟寄村へ御泊り、夫の直ニ鯖江御入被遊候由被仰越  
候旨善右衛門方の被申越候ニ付、才兵衛御宿支度相止申候

同廿九日

一老ヶ村の庄屋老長百姓老人、式人ツ、老本松茶屋迄召連罷出、  
殿様能州の御越被遊候を御目見得仕候、藤介様も御供能州の御越  
被成候処、御検地御役人様方宮前村ニ被成御座、明日・明後日之  
内重義村へ御越可被成由被仰付候由申上候へハ、御用も可有候間

重義村へ参候様ニと被仰候ニ付、殿様ニ御目見得仕候迄ニ而後候故御暇乞も不申上候間、御前之義可然様ニ被仰上被下候様ニと申上候、扨当郡御検見九月十五日過ニ御覽可被下候、去十九日大風之義、同廿一日北山筋霰之事、段々申上候而金津ニ而御暇乞申上、夫の宮前村へ参候而御検地御役人様方へ右之段々申上候、平助・権右衛門ハ舟寄村迄御供仕罷越御暇乞申上罷帰り候

八月晦日

一殿様舟寄村御立被遊鯖江被為入候節、藤介善右衛門ニ被仰聞候ハ、御用有之候ハ、可被仰越候間、大庄屋共も鯖江へ参候事無用之由被仰候由善右衛門被申聞候

九月一日

同二日

一園右衛門様・郷助様宮前村ニ而被仰付候ハ、御検見前ニ成候処、重義村・舟津村御検地ハ御指延被成候間、其段両村へ申越候様ニと被仰付候

同三日

一右御兩人様宮前村の鯖江へ御帰り被成候由ニ候

同四日

同五日

同六日

覚

一例年文右衛門検見ニ被相廻候節、泊候宿疊古候へハ少々面替仕候も有之候、向後堅無用ニ候、疊古ク損候ハ、へり取式三枚可有支度候

一ゆとの・セツちん無之所ハ、成程かろくしつらひ可申候  
(湯殿) (雪隠)

一泊所ニ而用候野菜・ともし油等過分ニ支度堅可為無用候、何ニ而も有合候野菜可用候、とうふ・こんにやくたり共不有合候ハ、是又不苦候、酒ハ一切無用ニ候

一庄屋長百姓之外泊所へ寄合、或者村々ニ而人馬之費も有之由ニ候、此段先達而申合無用之人馬堅相止可申候、右之趣跡々申合候へ共、村ニの不得心成仕形も有之ニ付如斯ニ候、若背候義於有之ハ、後日ニ相知候共詮義之上可為曲事候

一於村々坪刈之節筵式枚・み壺(箕)・鎌壺丁・布袋壺ツ、稻こき女三人ツ、出し可申候

一御入用を以仕立候川除并樋等之場所、其村ニ而可被申聞候、但其場へ道路悪敷候ともくるしからず候、一切通路難叶所者其所ニ而可被申聞候

一村々田方有之場可有案内候、通路悪敷候段ハ不苦候、以上

未九月五日

青山藤助印

坂井郡大庄屋三人

右書付披見之上写村附いたし相廻、庄屋判形を取重而可被相返候  
右之御廻状後山村の参候ニ付請取置候、則写村々へ遣し候

九月七日

一当立毛風損帳十九冊并御檢見村付仕、源八二為持鯖江へ遣し候

未年御檢見御廻り村附

御泊 前谷村 市兵衛

四町

笹岡村 宗左衛門  
市右衛門

拾町 堤切所繕式ヶ所

宮谷村 義太夫

拾壺町

青野木村 弥次兵衛

西方寺村 市郎右衛門

式拾壺町

清王村 九右衛門  
權兵衛

拾八町

赤尾村 伊右衛門

壺里

横垣村 次右衛門

井江葭村 二郎右衛門

七町 堤修復壺ヶ所

国影村 茂左衛門

拾町

牛山村 二郎右衛門  
弥兵衛

三拾町

城村 利兵衛

五町

新家 又左衛門

壺里 川浚壺ヶ所

西谷村 五郎右衛門  
次兵衛

三拾町

舟津村 清右衛門

八町

十楽村 与三右衛門

八町 堤切所壺ヶ所

田中々村 才兵衛  
長兵衛

拾町

六里半

番田村 又左衛門

九町

重義村 五右衛門  
二郎兵衛

廿五町 堤修復壺ヶ所

谷畠村

右之通書付壹通并城村・西谷村御見込ニ被成、赤尾・牛山・舟津  
・国影・井江葎・重義村・番田村・田中々村・十楽村田中々村ニ  
御泊候而宮前村へ御越被成候、書付壹通兩様ニ仕候而藤助様へ指  
上申候

同八日

一御廻り村付式通御請取被成候、城村・西谷村へも御越可被成候、  
当年ハ壹ケ村も御見廻不被遊候間其心得可仕由ニ候  
一風損帳御請取候間坂井郡小検見衆へ御渡可被成由ニ候  
一未進金取立候ハ、鯖江へ遣し、藤助様御留主ニ候ハ、掛屋十兵衛  
ニ預ケ置候様ニと被仰越候、国影村次右衛門ニ去年之御貸金壹兩  
早々返済仕候様ニと被仰越候

同九日

覚

一当未御年貢金其村百姓方庄屋方へ請取候押切帳、其村百姓壹  
人ニ壹枚宛之積、ふた紙共ニ白紙を以横帳ニとち、別紙案文之  
通上書相認持参可有候  
一当未諸役入用之品々元并右役割銀請取、押切帳別紙案文之通横  
帳にとち、上書相認持参可有候  
一小百姓方へ遣候御年貢金庄屋請取通、其村百姓壹人ニ付壹枚宛  
之積り、別紙案文之通相認持参可有候

一庄屋方庄屋致印判早々末々へ可相廻候、御巡見之節触留之  
候積、別紙案文之通相認持参可有候

右之通銘々案紙遣候通相認、来廿七日ニ鯖江御役所へ持参可有候、  
此方致印判可遣候条、今年御年貢金并諸役入用金共ニ右之帳  
面ニ記之候様ニ可相心得候、且又当未御年貢金村別ニ鯖江御役所  
へ持参仕可相納候、初納金割者追而可申遣候、油断有間敷旨百姓  
中へ可被申渡候、以上

未九月七日

青山藤助印

前谷村 笹岡村  
宮谷村 青野木村  
清王村 柿原西方寺村  
赤尾村 牛山村  
横垣村 井江葎村  
国影村 重義村  
番田村 田中々村  
十楽村 舟津村  
西谷村 城村  
新家

右村々庄屋中

右書付村下ニ庄屋致印判早々末々へ可相廻候、御巡見之節触留之  
村ハ青山藤助方へ可相返候、以上

覚

一村々御年貢金当未年〆村別ニ鯖江御役所へ持参可相納旨就披仰付候二、則其段村々へ廻状を以申遣候条、其心得可有候

一小百姓方〆当御年貢金・諸役入用銀、右両様庄屋方〆小百姓へ遣候請取通并押切帳、白紙を以相認指出候様ニと案紙を以村々へ申遣候、指出次第此方印形いたし可相渡候条、其心得可有候

一当夏書付を以申渡候通、大庄屋切米之外金銀少ニ而も一切組下へ割付取立被申間敷候

一去午之御年貢未進金取立可被相納候、相滞候故此方御用之妨ニ罷成候間、油断有間敷候、以上

未九月七日

青山藤助 印

舟寄村

善右衛門殿

後山村

平助殿

前谷村

郎左衛門殿

右書付令一覽名之下ニ致判形追而可被相返候、以上

右式通之御書付并村々庄屋〆小百姓へ可相渡御年貢金通・同留帳

・諸役入用銀請取通・同留帳案紙四枚被遣候を、今日後山村〆村

次ニ参候を請取候

九月十日

一当立毛風損所并御検見御道筋為見分と村々へ罷出候

覚

一当御検見九月十八日大野郡比嶋村〆川上村、後山村御泊り、同十

九日清滝村・鎌谷村・櫛村・南疋田村・里竹田村・玄女村・御油田村・宮領村・田嶋村・川和田村・伊井村・清間村・御泊前谷村、同廿日笹岡村・宮谷村・青野木村・柿原西方寺村・清王村・赤尾村・横垣村・井江葭村・御休国影村・牛山村・城村・新家・西谷村・舟津村・十楽村・御泊田中々村、同廿一日番田村・重義村・宮谷村・藤沢村・谷畠村・上新庄村・徳分田村・御泊舟寄村、同廿二日大針村・中筋村・北横地村・今立郡下新庄村御泊

覚

一金七両

前谷村

内 三両貳分

十月十一日

内 三両貳分

同 十六日

一金三拾壹両

笹岡村

内 拾六両

十月十一日

内 拾五両

同 十六日

一金貳拾四両

宮谷村

内 拾貳両

十月十一日

内 拾貳両

同 十六日

一金三拾壹両貳分

青野木村

内 拾六両

十月十一日

内 拾五両貳分

同 十六日

一金八両貳分

清王村

四両貳分

十月十一日

内 四両	同 十六日	柿原西方寺村	一金三拾五両式分	番田村
一金貳両式分	十月十一日		拾八両	十月十一日
内 壹両壹分	同 十六日		拾七両式分	同 十六日
一金拾四両式分		赤尾村	一金四拾六両	田中々村
内 七両式分	十月十一日		内 貳拾三両	十月十一日
内 七両	同 十六日		貳拾三両	同 十六日
一金拾壹両式分		牛山村	一金三拾八両	十楽村
内 六両	十月十一日		内 拾九両	十月十一日
内 五両式分	同 十六日		拾九両	同 十六日
一金六両		横垣村	一金三拾五両	舟津村
内 三両	十月十一日		内 拾八両	十月十一日
内 三両	同 十六日		拾七両	同 十六日
一金三拾六両		井江葎村	一金拾両	西谷村
内 拾八両	十月十一日		内 五両	十月十一日
内 拾八両	同 十六日		五両	同 十六日
一金拾九両式分		国影村	一金九両式分	城村
内 拾両	十月十一日		内 五両	十月十一日
内 九両式分	同 十六日		四両式分	同 十六日
一金三拾五両		重義村	一金式分	新家
内 拾八両	十月十一日			十月十一日
内 拾七両	同 十六日		合金四百壹両式分	十月十一日
			貳百四両壹分	

内

百九拾七両壹分 同 十六日

後山村平助殿

右者其村々当未之御年貢之内初納金割如此二候、右之金高日限無相違急度取立持参可有候、若於遲滯於有之二ハ詮義之上急度可申付候、以上

尚々右之金取立次第早々可被相納候

右之御書付当十日二右之御書付共と一所二参候二付、後山村へ早々遣し申候

未九月十日

青山藤助 印

右村々庄屋中

同十四日

右書付村下二庄屋印判いたし早々末々へ可相廻候、尤留り可

一村々庄屋中被参候二付御検見之段々申渡候

相返候、以上

右之御書付村々遣し申候、右御書付共舟寄村々村次ニ参候を請取

同十五日

申候

九月十一日

同十二日

同十三日

一去午御年貢未進金早速取立遂勘定可被相納候、我等留主二候

ハ、掛屋十兵衛二相渡、手形を取置可被申候、江戸御金蔵納方

別而当年者きひしく被仰付候、以来者只今迄之通遲納不罷成候、

大形年内皆済ニ可罷成と存候、以上

同十六日

一明十七日之朝ハ小検見様方谷畠村ハ重義村へ御越被成候二付、今

九月十日

青山藤助 印

晚ハ自分重義村迄罷越候

舟寄村善右衛門殿

同十七日

前谷村二郎左衛門殿

一山本沢右衛門様・西谷武知右衛門様、重義村・番田村・田中々村

・十楽村・西谷村・新家城村・舟津村右村々御検見被成候、田方立毛上中下三ヶ所坪苜被成候而、舟津村弥次兵衛二御泊り被成候、馬壹疋番田村、馬壹疋十楽村是ハ舟津二而昼次、番田村人足壹人・重義村壹人・田中々村壹人ノ三人、御荷物田中々村ハ舟津へ相届候

同十八日

一右御兩人様、牛山村・国影村・井江葎村・横垣村・赤尾村・清王村・西方寺村・青野木村・宮谷村、右之通御検見被成候而宮谷村義兵衛方二御泊り被成候、牛山村馬壹疋・国影村馬壹疋、御荷物ハ城村ハ人足壹人・西谷村ハ式人ノ三人、舟津村ハ宮谷村へ遣し候

一右御兩人様明十九日宮谷村ハ伊井・清間村・笹岡・前谷村ハ柵村、夫ハ後山村御泊り、清王村ハ馬壹疋・青野木村馬壹疋・後山組ハ、昼次人足ハ赤尾村ハ三人二而、宮谷村ハ後山村へ相届候様ニと申遣し候

一殿様大野郡比嶋村ハ川上村・後山村御検見被遊候而後山村二御泊り、明十九日鎌谷・柵ハ玄女・御油田・宮領・田嶋・伊井・清間ハ前谷村御泊り、明後廿日御立之馬人足笹岡村ハ馬壹疋階具(替)、昼次人足壹人宮谷・壹人青野木・壹人西方寺・壹人清王・式人横垣・式人井江葎、馬壹疋同村・国影馬壹疋、昼次番田馬壹疋・人足式人、重義馬壹疋・人足式人、馬ノ四疋・人足ノ拾四人申付候

一金壹分、御初尾金梅壹分本院へ相渡、但前年之通村々へ可相渡御札・扇等預り置申候

九月十九日

一右御兩人御検見衆宮谷村右割付之高人足二而御立候而、伊井・清間・笹岡・前谷村松竜寺二而御休候而柵村へ御越、後山村二御泊り、御送之馬ハ後山与ハ昼次

(古郡年明・鱒江代官)

一文右衛門様後山ハ御立被遊、右書付之村々御巡見被遊、清間ハ前谷村歩刈被為成拙者方二御泊り、御供、藤助様共二上下拾四人、木錢雜用入用代錢丁壹貫百弍拾文者大高新内殿ハ請取、丁三百四文政右衛門殿ハ請取候、右御兩人御検見衆ハ後山ハ御見廻二御出被成候

一藤助様ハ頃日度々被遊候御書付并当初納金割付之御書付村々判形を取、以上四通致返進候  
一布目村彦兵衛方ハ御買被成候うに指上候二付、代銀四匁右請取候錢之内二有、拙者請取手形指上申候、うにハ鱒江飛脚之者へ被遣候

同廿日

一明六ツ初二右村々へ割付候人馬二而前谷村御立被遊、笹岡・宮谷・青野木・西方寺村・清王・赤尾・横垣・井江葎・国影村二而御昼休、御弁当ハ自分方ハ持参仕候、城村ハ御除被遊、西谷・舟津

・十楽・田中々村、右村々ニ而坪刈被遊候而、田中々村才兵衛方  
ニ御泊り被遊候

一 田中々村用水江縁買板之義、藤助様を以御願申上候へハ、被仰付  
可被下候由被仰聞候

一 城村当田作立毛刈取候ニ付御巡見御除被遊、右之村急度被仰付候  
処、色々御詫言申上口書御取被為成御免ニ候、庄屋長百姓判形指  
上申候

一 右御両人之小検見衆宮領村ニ御泊り之由

同廿一日

一 明六ツ初二御送り之人馬舟寄組ハ出候ニ付田中々村御立被遊、番  
田・重義村御覽坪刈被仰付、重義村石はねハ渡舟ニ而谷島村へ御  
越被遊候ニ付、御暇乞申上候而罷歸り候、舟寄村ニ御泊り之筈  
一 田中々村御泊り御用ニ、十楽村与三右衛門・番田又左衛門・井江  
葭村二郎右衛門・田中々村長兵衛罷出候

同廿二日

一 舟寄村ハ御立、今立郡下新庄村平左衛門方御越之筈ニ候

同廿三日

一 銀四匁八分壹厘      笹岡村宗左衛門  
一 銀七匁四分九厘      同村

一金貳分銀九匁七分壹厘      舟津村  
一金三分銀拾貳匁五分      重義村

一金壹兩三分銀拾匁      前谷村

内  
壹分五匁九厘      未ノ戻り銀  
壹兩貳分      請取  
残  
九匁九分壹厘

同廿四日

一 午御年貢皆済状ニ庄屋長百姓判形取申候

九月廿五日

一 廿五日講中貳拾五人御書之入用銀九拾目六分之内、銀拾五匁布目  
彦兵衛、同拾五匁自分ハ出ス、残六拾匁六分貳拾三人ニ割付、壹  
人ニ貳匁六分四厘ツ、当り申候

同廿六日

同廿七日

一 最前村々へ被仰付候未ノ年御年貢之通・同留帳・同年役割元帳・  
同通を認持候而庄屋共参候様ニと、則拙者共ニも鯖江へ参候様ニ  
と被仰付候ニ付罷越候、右四通之帳通組中取集候而藤介様へ指上  
候へハ被仰渡候ハ、明廿八日村々庄屋共ニ神文可被仰付由ニ候間、

明朝の精進仕候様ニと被仰付、其段何れへも申渡候

一金拾八両銀五匁七分四厘、午御年貢金藤助様指上御通帳二付  
請取申候

一金壹両、是ハ国影村次右衛門去年江戸ニ而借候金子、次左衛

門持参仕候を請取則藤助様へ指上候へハ、借証文之次右衛門

判形を消可申由被仰越候

一銀拾三匁、掛屋十兵衛午ノ年惣包銀之内不足有之由被申二付

相渡し申候

一午御年貢皆済状、村々庄屋長百姓判形を取拾九通久野右衛門様御

家来ニ預ケ置候処、御請取候間重而裏判を被成可被遣候由

同廿八日

一村々庄屋於御陣屋ニ神文被仰付候、則前書之写別紙ニ有、郡中大

庄屋ハ一紙ニ而神文被仰付候、前書之写別紙ニ有之候

一昨日指上候四通之通紙・同留帳ニ判形被遊候而御返し、村々請取

罷歸り候

同廿九日

一鯖江の罷歸り候

十月一日

一金壹分前谷村御年貢金之内悪金ニ而市兵衛ニ返し渡

同二日

同三日

同四日

同五日

一番田村弥右衛門申来候ハ、庄屋組を別新庄屋を立御金之取立仕度

候之由申二付、最前何角と被申二付村中へも様子申聞納得仕候

様ニと申、又左衛門も今迄之通村一所ニ仕度申二付、其方へも色々

申聞候得共承引無之、何を一ツ申立ニ仕新庄屋立程之事聞届不申

候へハ、此方ニ而庄屋別申義難成候間、其方鯖江へ被参候而御訴

訟申上、御了簡次第ニ可被仕候と申聞候、其上弥右衛門田之境を

かり取申者有之候間、吟味仕くれ候様ニと申二付、当春少分之

事毎度何角と被申出、聞届申事も難仕候間、此度之事も書付を以

可被申候、一通承候而下ニ而不相濟事ニ候ハ、御取次可申由申渡

し候

十月六日

同七日

同八日

一村々御年貢初納金割、先達而申遣候処毛頭無不足、尤日限無相違

急度相納候様ニ可被申付候、跡々ハ百姓心次第ニ相納候得共、爰

元御用之妨ニ罷成候、向後此方申遣候日限無相違様ニ急度可被

申付候、石田領初納金ハ当月二日切ニ取立去三日江戸へ指下候、

同十日

此方御代官所村々ハ当夏も遅滞ニ付為念如此ニ候

一舟寄組去年未進金早々可被指越候、先日申通勘定指支令難義候、此上滞候ハ、此廻状参着次第未進之村々百姓可被指越候、近頃油断之至ニ候、此方おさいそく可申義ニ而ハ無之候、向後御用之義無滞様ニ可被相心得候

一与下村々庄屋共之内、前谷村市兵衛・西方寺村市郎右衛門・青野木村三平・井江葎村長左衛門・牛山村弥兵衛・城村藤兵衛・舟津村清左衛門・田中々村才兵衛、此八人先月廿七日ニ何れも被召寄候節、名代ニ而不参候ニ付今日銘々参候、但井江葎村長左衛門ハ不参候ニ付、重而参候様ニと被仰付候由

一先日二郎左衛門被申候ハ、当初納金調間敷候間延引可仕も難斗由被申候、大庄屋役相勤候者如此申候ハ、村々ハ尚以油断可仕候、実々可滞と被存候ハ、口上ニ而ハ聞届かたく候、書付を以可被申越候、旦那へ可相伺候、二郎左ハ石田領ニ田地所持可有候、初納金ハ不相納候哉、淵底石田領納之義可存義ニ候、向後御年貢金日限延引之断可為無用、最前も申通以前とハ違候、御年貢不罷成候ハ、其百姓持高取はなし可被申候、以上

一西方寺村十右衛門別キニ御金指上申度由申来候ニ付、少村ニ而纔之金子を為兩人と持参仕候ハ、御詮義可有候間、市郎右衛門を庄屋ニ立御年貢相渡申様ニと異見申聞候へハ、納得仕罷歸り候

未十月七日

青山藤助

舟寄村

善右衛門殿

前谷村

二郎左衛門殿

後山村

平助殿

十月十二日

同十三日

右之外組下村々へ被遣候藤助様御廻状壹通共ニ、鯖江お飛脚ニ而持参候ニ付而、右之御廻状ニ印判仕飛脚之者ニ相渡後山へ参候、村々へ被遣候御廻状ニ添状仕村々へ遣し申候

一昨十二日之朝小林郷助様御死去之由、舟寄善右衛門方お被申越候一細呂木村太郎左衛門申来り候ハ、今度村々百姓方御改印之通相渡候処、私方へハ通相渡不申候、相渡候様ニ被仰付被下候様ニと断申ニ付、其方事先年お通も持不申、諸帳面ニも名出し不申候ニ付、西方寺村之百姓ニ而ハ無之候との出入ニ候へハ、今以通を相渡、

同九日

諸帳面太郎左衛門と書出し候様ニとハ難申付候と申聞候

同十四日

同十五日

一前谷村市兵衛を組中為惣代と鯖江へ遣し郷助様御悔申上候

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

一牛山村宗次郎最前の訴出候山之義、何とぞ埒明申様ニと申来候ニ付、何とぞ下ニ而相済申度候間少之内相待申様ニと申聞候

同廿日

同廿一日

一番田村弥右衛門出入ケ間敷事ケ条数多申来り候ニ付、一々覚申事も難成候間以書付可被申出候、下ニ而相済申事ニ候ハ、相済可申候、若下ニ而相済不申義ニ候ハ、取次可申上候、以書付被申上候様ニと申渡し候

同廿二日

同廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

一番田村弥右衛門申来候者、右申出候出入之事共、庄屋又左衛門何とぞ相済可申由申候間、書付指上不申候間不申上分ニ被成被下候様ニと申来り候

同廿七日

同廿八日

一牛山村権右衛門来申ノ春上乘ニ参度由願出候

同廿九日

一西方寺村十右衛門と同村小百姓共と算用之義ニ付及出入候ニ付、宮谷村義兵衛・柿原十楽村五十郎・清王村権兵衛被出、我等も立合様子承候、何れも相談之上扱申候処双方共ニ納得相済申候、(マ)細委証文有

十月晦日

覚

一金貳兩貳分

前谷

内 壹兩貳分

十一月十一日

壹兩

同 十六日

一金拾四兩

笹岡

内 壹両	同	十六日	西谷
内 壹両	同	十一月十一日	
一金貳両	横垣		
内 三両	同	十一月十一日	
内 貳両	同	十六日	
一金五両	牛山		
内 三両	同	十一月十一日	
内 貳両貳分	同	十六日	
一金五両貳分	赤尾		
同	同	十一月十一日	
内 貳両	同	十六日	
内 貳両	同	十一月十一日	
一金貳分	西方寺		
同	同	十一月十一日	
内 貳両	同	十六日	
一金四両	清王		
同	同	十一月十一日	
内 八両	同	十一月十一日	
内 七両	同	十六日	
一金拾五両	青野木		
同	同	十一月十一日	
内 六両	同	十六日	
内 六両	同	十一月十一日	
一金拾貳両	宮谷		
同	同	十一月十一日	
内 七両	同	十六日	
内 七両	同	十一月十一日	
一金拾五両	井江葎		
内 八両	同	十一月十一日	
内 七両	同	十六日	
一金八両	国影村		
内 四両	同	十一月十一日	
内 四両	同	十六日	
一金拾壹両	重義村		
内 六両	同	十一月十一日	
内 五両	同	十六日	
一金拾兩貳分	番田村		
内 五兩貳分	同	十一月十一日	
内 五兩	同	十六日	
一金拾三兩貳分	田中々村		
内 七兩	同	十一月十一日	
内 六兩貳分	同	十六日	
一金拾四兩	十楽村		
内 七兩	同	十一月十一日	
内 七兩	同	十六日	
一金拾四兩	舟津		
内 七兩	同	十一月十一日	
内 七兩	同	十六日	
一金壹兩貳分	西谷		

内 三分 十一月十一日  
三分 同 十六日

一金拾兩 城村

内 五兩 十一月十一日

五兩 同 十六日

一金壹兩 新家

内 式分 十一月十一日

式分 同 十六日

右八当未御年貢金之内可納割如此二候、右日限之通急度持參可  
相納候、若日限令相違候ハ、外之御用妨ニ罷成候間其心得可有  
候、油断有間敷候、以上

未 十月廿八日 山本沢右衛門印

齋藤久野右衛門

尾花園右衛門印

青山藤助印

右村々庄屋中

此配符村下ニ印判いたし早々可相廻候、留可相返候、以上

一当御年貢金来月十一日・十六日可納割別紙配符遣し候条、右日  
限於延引ニハ爰元外御用之妨ニ罷成、其上外郡之納と取紛別而  
不宜候、跡々と違候而納方急度可申付旨江戸に申来り候間、少  
も油断不仕候様ニ可被申付候、為其申遣し候上延引仕候存念候  
ハ、庄屋長百姓一同右日限ニ可指越候、以上

十月廿九日 青山藤助

追而且那来月四日頃ニ御発足二候、被御渡義有之間来月朔日ニ  
可被參候、以上

前谷村大庄屋  
二郎左衛門殿

尚々初納金不足之村々ハ急度持參相納候様ニ可被申付候、但金  
三分迄不足之村ハ不苦候、以上

右式通之御書付、今日後山村に村次ニ參候ニ付村々へ遣し申候、  
我等添配符遣し申候

十一月一日

一鯖江へ參候得共暮候ニ付御断を申上、御役所へハ不罷出候

同二日

一大庄屋共不殘御陣屋へ御呼候而五ヶ条之御書付ニ判形御取被成、  
即写取村々へも堅申渡候様ニと被仰付候

同三日

一当未年御免状御渡被成、即請取候段大庄屋不殘連判手形指上候  
一御廻米之義ニ付大庄屋不殘連判ニ而願状指上候、即留書有

同四日

同五日

一殿様江戸へ御帰り被遊候ニ付、大庄屋共不残松森迄御見送りニ参候

一於御陣屋大庄屋不残御料理被下候

一当暮役割之義一組切御用ニ遣候馬人足、其外跡々組割ニ仕来り候

物共書付、当十八日ニ立合之者ニ為持鯖江へ遣し候様ニと被仰付候

同六日

一鯖江へ罷出福居松屋町吉兵衛方ニ泊候

同七日

一宿へ罷帰り候

同八日

同九日

同十日

同十一日

一村々庄屋長百姓不残呼寄候而、此度被仰渡候五ヶ条之御書付を以委細申渡判形を取、并来申春御廻米之義ニ付大庄屋中連判ニ而指上候願状ニ判形取申候、并当未ノ年御免状相渡し申候

同十二日

一京都愛宕山へ例年之通村々へ御札并扇共ニ持参ニ付預り置申候、来年御初尾之義ハ村々へ御廻り候て御取候様ニと申入候

一布目村彦兵衛方へ相談之由申来り候ニ付参候へハ、田中村所平方

へ三国大坂屋方へ当春貸金之義扱くれ候様ニと被申候得共、

「」之事不埒ニ而罷帰り候

十一月十三日

同十四日

同十五日

同十六日

一番田・重義・十楽・田中々村此四ヶ村之庄屋中被参候而、当御免大分上り申ニ付村々小百姓手前吟味仕候处、被仰付候通御米三ヶ疋も無御座候ニ付、百姓手前ニ米有之候分ハ御廻米ニ仕立、相残分ハ金納ニ被仰付被下候様ニと願状指上申度候間、御取次仕くれ候様ニと被申ニ付、御取立之義ニ付御訴訟申上候事無用之由被仰付ニ候へハ取次申義難成候、先其訴訟ハ指置、御割付之御金上納候様ニと申付候

同十七日

一宮谷村義兵衛、最前申付候通明十八日ニ割方立合ニ鯖江へ参候様ニと申遣し候

同十八日

同十九日

同廿日

一前谷村市兵衛鯖江へ参候ニ付、午ノ御年貢納方藤助様御通帳久野右衛門様迄遣シ、村々皆済状ニ御引かへ被下候様ニと申遣候

同廿一日

同廿二日

一久野右衛門様御痛有之候而、皆済状御裏判出来不申候ニ付、御通帳ハ御預り置候間、重而皆済帳可被遣由市兵衛ニ被仰越候

同廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

一村々御年貢金日割を以申付候処令遅滞不届ニ候、不足之村々ハ牢舎可申付候間、壹ヶ村ハ百姓壹人宛可指越候、尤不足金一兩日中ニ急度可相納候、先達而申遣候通如此於延引ハ、此方御用之妨ニ成候間油断有間敷候

未 十一月廿五日

山本沢右衛門 印

青山 藤助 印

前谷村

二郎左衛門殿

与下村々

此配符村下庄屋致印判早々相廻シ、御金持参之節留り之村ハ可相返候、以上

追而當御物成米直段壹石ニ付五拾四匁六分、塩壹石ニ付三拾四匁九分七厘ニ相究候間可得其意候

右之御書付宮谷村義兵衛大割立合ニ参候、昨廿五日ニ仕廻今日致帰宅候由ニ而為持遣し候

右之通被仰越候間、御割付不足金之分今日之内ニ鯖江へ持参可被申候、若今日之内ニ御金相済不申候村ハ、慥成百姓壹人

鯖江へ遣シ可被申候、御金も相済不申百姓も指越不被申候ハ、庄屋長百姓申ハけ有間敷候間、早々御金取立相済可被申候、以

上 右之通我等付配符仕村々相廻し候

十一月廿七日

一鯖江大割并組割共ニ与下村々へ割当り写帳壹冊

一組割ニ仕候本帳壹冊

一役割ニ付人馬御定之書付之写壹通

右者當春役割之以来鯖江御用之諸入用、組々ニ而之入用等御吟味之上、壹組ハ立合之庄屋壹人ツ、罷出割合仕候ニ付、宮谷村義兵衛遣し候処割合相済罷歸り候ニ付、右之書付共此方へ相渡し候

一宮谷村弥右衛門高上ヶ証文并ニ御年貢借物之書付、義兵衛持参ニ

付請取置候

一 井江葭村安右衛門高拾八石式斗所持仕候処ニ、御年貢不罷成候由  
義右衛門方も断有之二付、高上証文并借方目錄相究、鯖江ニ而御  
窺被申候様ニと申聞候

同廿八日

同廿九日

十二月朔日

廻米四分通年内納之寛

一米三拾俵

一米百七拾三俵

一米百五拾五俵

一米百九拾七俵

一米五拾式俵

一米七俵

一米七拾三俵

一米六拾俵

一米式拾五俵

一米式百式俵

一米百六拾四俵

一米百五拾式俵

一米式百式俵

一米百九拾五俵

一米百八拾七俵

一米式拾式俵

一米百拾式俵

右之通廻米仕立置可申候、来月十日過も相改郷藏納可申付候、其  
節手つかへ不申様可被心得候、油断有間敷候、以上

未 十一月廿七日

右村々庄屋中

尾花園右衛門印

此配符披見之上米欠数之所ニ庄屋印判いたし順々相廻し、とまり  
（具）  
も次而之節可被相返候

右之御配符今暮六ツ時ニ柵村も持参ニ付遅参之段相尋候へハ、只  
今後山村も持参之由申候、右之御米早々仕立申様ニと添配符仕、  
早々村々へ遣し申候

同二日

一 京都愛宕山寿元方も御はつお金壹分請取候由、返状北金津油屋善  
右衛門方も指越請取申候

同三日

同四日

一 私用ニ而金津へ参候

十楽

舟津

西谷

国影村

十二月五日

一 笹岡村弥五兵衛鯖江へ参候便りニ、皆济状被遣被下候様ニと久野  
右衛門様へ書状遣し候

同六日

一 今日右弥五兵衛鯖江へ参候

同七日

同八日

一 右弥五兵衛二午皆济状被遣候請取候、外藤助様方村々御金割并御  
配符被遣候請取申候

覚

一金貳兩壹分

前谷

内 壹兩壹分

十二月十一日

壹兩

同 十五日切

一金貳兩貳分

同村

是八来三月可納

一金貳拾兩

笹岡

内 拾兩

十二月十一日切

拾兩

同 十五日切

一金拾貳兩三分

同村

右同断

一金七兩

宮谷

内 四兩

十二月十一日切

三兩

同 十五日切

一金拾兩貳分

同村

右同断

一金八兩

青野木村

内 四兩

十二月十一日切

四兩

同 十五日切

一金拾三兩貳分

同村

右同断

一金壹分

十二月十五日切(マ) 西方寺

一金三分

同村

右同断

一金貳兩

清王

内 壹兩

十二月十一日切

壹兩

同 十五日切

一金三兩貳分

同村

右同断

一金三兩三分

赤尾

内 貳兩

十二月十一日切

壹兩三分

同 十五日切

一金五兩貳分

同村

一金三兩三分	右同断	十二月十一日切	牛山
内 貳兩			
壹兩三分	同	十五日切	
一金四兩貳分	右同断		
同村			
一金六兩	右同断		
内 三兩		十二月十一日切	国影村
三兩	同	十五日切	
一金八兩	右同断		
同村			
一金拾貳兩壹分	右同断		
内 六兩壹分		十二月十一日切	井江葎村
六兩	同	十五日切	
一金拾四兩三分	右同断		
同村			
一金壹兩壹分	右同断		
内 三分		十二月十一日切	横垣村
貳分	同	十五日切	
一金貳兩壹分	右同断		
同村			
一金拾壹兩貳分	右同断		
同			重義

  

六兩	内	十二月十一日切	
五兩貳分			
一金拾貳兩三分	右同断		
同村			
一金九兩壹分	右同断		
内 五兩		十二月十一日切	番田
四兩壹分	同	十五日切	
一金拾貳兩壹分	右同断		
同村			
一金拾三兩三分	右同断		
内 七兩		十二月十一日切	田中々村
六兩三分	同	十五日切	
一金拾六兩壹分	右同断		
同村			
一金拾五兩	右同断		
内 八兩		十二月十一日切	十楽
七兩	同	十五日切	
一金拾四兩貳分	右同断		
同村			
一金拾三兩	右同断		
内 七兩		十二月十一日切	舟津
六兩	同	十五日切	

一金拾三両三分

同村

右同断

一右御金割之之外(符)二拙者方へ御書付被遣候二付而書写置候、鯖江彦六言伝候而返上仕候

一金壹両三分

西谷

内 壹両

十二月十一日切

十二月九日

三分

同 十五日切

同十日

一金貳両三分

同村

右同断

一金七両貳分

城村

内 四両

十二月十一日切

三両貳分

同 十五日切

同十一日

一金貳分

新家

是ハ十二月十五日切可納

一銀三拾壹匁六分四厘 新家普請扶持  
内 拾五匁八厘 夏指引二入

右者当未御年貢本途之内貳分通小物成米銀年内可納割如此候、但

八分五厘不残取立候へハ廻米難義之由相聞候二付、右書面之通金

高之内貳分通ハ来三月迄相延候、年内可納分日限之通急度持参可

有候、油断有間敷候、已上

一銀五拾七匁五分 重義村も預り  
残 三匁五分七厘 預り有  
内 四拾三匁五分四厘 給銀二請取

未 十二月七日

山本沢右衛門 印

斎藤久野右衛門 印

尾花園右衛門 印

青山 藤 助 印

右之御書状早々村々へ遣し申候、右之御廻状十二月廿日園右衛門

様へ指上

一井江葭村庄屋替り証文請取候

一御書付之写ニ庄屋長百姓判形取申候  
一午御年貢金拙者請取候假通皆済状、立合算用いたし皆済状相渡申候

十二月十二日

同十三日

一金壹両出村立町之屋賃おそよ請取

一三国大坂屋と田中村所平と出入扱之義二付三国へ参、布目村彦兵衛・野中村五左衛門・下兵庫村吉太夫・大牧村文左衛門と対談仕候

同十四日

一右之義二付油屋村八兵衛三国へ呼出し候て対談仕候

同十五日

同十六日

一柿原十楽村五十郎・庄兵衛申来り候ハ、柿原西方寺村御高之内九石細呂木村太郎左衛門分ニ而、丑ノ年質物ニ取置候処代金元利共ニ相済不申候ニ付、太郎左衛門方へ吟味仕候処右高請出し申事成不申候ニ付、質物流証文請取候由断ニ付、西方寺村右之判人方へ相断候様ニと申渡し候

同十七日

一銀貳匁 三国中村屋こんふ代銀渡  
一銀貳匁八分 松岡屋七右衛門たはこ代二渡

一銀八匁五分 へり畳之絹代川嶋屋へ渡

一銀拾匁六分五厘 立町貸屋地子銀庄屋八兵衛二渡ス

一銀拾匁六分五厘 同地子米代ニ同人へ渡

一金壹分 三国境屋へ渡ス

一銀貳匁 地黄丸之代ニ渡

一銀四匁五分 薬之代金右衛門ニ渡

同十八日

一高貳拾石 国影村 茂左衛門

此代米三石六斗八升 此利四割

一高貳拾石 同村 次右衛門

此代米貳石七斗六升 此利四割

右者申ノ十月切貸主南金津米屋太郎左衛門、自分輿判いたし候

其村々当御年貢金相滞不届至極ニ候、如何様之訳ニ而不納候哉、急度可遂吟味候間庄屋長百姓来十七日を限陣屋へ可罷出候、但先日割付遣候通致上納候ハ、罷出候ニ不及候、もはや年内無余日候間毛頭油断有間敷候、以上

未 十二月十三日 山本沢右衛門 印

青山藤助 印

村々

村々御年貢金令遅滞不届ニ候、もはや年内無余日候、依之庄屋長百姓呼寄可令吟味候、則廻状遣し候条早々相廻し、日限之通

罷有候様ニ尚又可被申付候、以上

十二月十四日

山本沢右衛門

青山藤介

右式通之御配符当月十五日ニ到来、早々村々へ添配符ニ而遣し申候

十二月十九日

一 四分通御米郷蔵詰、其外御年貢御吟味として後山村の園右衛門様御越被成候而御泊り被遊候

一米何拾俵

何村

一米何百何拾何俵

何村

右当御年貢米本途之内八分通江戸御廻米被仰付候、同四分通年内御廻米ニ仕立候分、今度御吟味之上大庄屋二郎左衛門并村々庄屋相符印を以郷蔵へ御納御米慥ニ預り申候、然上八万一火事・盗人・鼠喰・雨漏其外如何様之義ニ而俵数相違仕候歟、損シ申候ハ、村中ニ而急度御米弁早速御廻米仕立、於来春何時ニ而も御指凶次第早速津出シ可仕候、残四分之義者来正月上旬の段々御米拵立、繩俵入念御指凶次第津出シ仕、御改を請可申旨被仰渡奉畏候、若油断仕御米指支申候ハ、何分之越度ニも可被仰付候、為其村々庄屋長百姓連判を以証文指上申候、以上

十二月廿日

村々 庄屋印

長百姓印

右之通横帳ニ而判形御取被成候

一 高六石式斗代金七兩三分、卯三月五日ニ笹岡村作太夫・同惣右衛門方へ質物ニ入置候処、当年請出右証文之奥判消申候

同廿日

一 園右衛門様自分方お井江葎村へ御越被遊、則村々庄屋長百姓并江葎村へ被召寄、御米郷蔵納之義被仰付候ニ付権右衛門参候、御送り之人足式人笹岡村、式人宮谷村、式人青野木村、式人清王村、メ七人ニ而御越被成候

一 笹岡村清右衛門家質物証文相究請取候

一 右清右衛門来春御廻米上乘之義、庄屋長百姓一所ニ参願申出候

同廿一日

一 園右衛門様并江葎村ニ而御米之事村々へ急度被仰、今日舟寄村迄御越被成候、御送り人足式人赤尾、式人横垣、式人并江葎、式人牛山、式人国影、式人舟津、式人田中々村  
一 南金津太郎右衛門西方寺村へ高質物ニ取金子借候得共、相濟不申候由断ニ参候ニ付、西方寺村はいふ遣し申候  
一 久野右衛門様造酒御改ニ御越被成候而当村清左衛門方ニ御泊り、御送り・迎之人馬造酒役ニ相勤候ニ付与下ニ構不申候、廿二日ニ鯖江へ御帰り被成候

同廿二日

一横垣村五右衛門・与次兵衛貸方埒明不申候由、若藤屋弥次兵衛方以書状断二付、則横垣村配符遣し申候

十二月廿三日

一金貳両　　十楽村の遣九左衛門二而入

内

四拾七匁七分九厘　　未暮給銀手形渡

七拾壹匁六分貳厘　　鯖江大割銀之内

自分手形渡、前谷村可取分

残　　銀五分九厘　　遣九左衛門二渡ス

一田中村所平と、三国大坂屋教心買米代金出入為扱と、大牧村文左衛門・兵庫村吉太夫・三国両かへや太右衛門・布目村彦兵衛被参候二付、中川村乘願寺迄参所平呼出、売米代金四拾八両三分銀拾壹匁内貳拾四両貳分只今払渡、残金ハ貫二仕扱相済申候、右貳拾四両貳分之出方ハ六両三分大坂屋諸色売物代、八両壹分野中村五左衛門五両、油屋村八兵衛壹両貳分、彦兵衛壹両貳分、五左衛門重而出筈、壹分ハ文左衛門、壹分二郎左衛門、壹両ハ三国の可出筈、右惣金之内拾壹両彦兵衛の預り、右之本証文所平方の自分方取置、貳拾四両貳分文左衛門・自分仮預り手形所平ニ相渡

同廿四日

同廿五日

一権右衛門村々郷藏符付ニ罷越候

同廿六日

一権右衛門村々郷藏符印仕廻候而罷帰候

同廿七日

一宮谷村左五右衛門十六日ニ鯖江へ参、与次右衛門義申上候二付、庄屋長百姓被召寄候而、与次右衛門義段々御吟味之上牢舎被仰付候、家ハこわちにい二仕置可申候、諸道具ハ女之兄庄左衛門ニ、同雜穀等も庄左衛門ニ相渡申候由義兵衛申来候、段々口書等鯖江ニ而御取被成候由

一青野木村忠兵衛・才二郎高上ケ証文之留弥次兵衛持参候二付請取置申候

一田中村所平方へ可相渡金子之内壹両貳分札銀四百六拾五匁、布目村彦兵衛方の指越候二付預り申候、金三両三分野中村五左衛門方の被指越預り置申候

一宮谷村庄右衛門馬落申由証文取置候

同廿八日

一田中村所平方へ布目村彦兵衛・野中村五左衛門方の預り候金貳拾四両相渡し、先日文左衛門・自分仮預り手形取返し判を消相済申

候、文左衛門・自分壹分ツ、之出金ハ不足ニ而所平ニ断申候、文  
左・拙者仮預り判形を消、番田久七ニ言伝彦兵衛方へ遣し申候、  
藤七・彦兵衛本証文ハ片便故此方ニ指置申候

一 柿原十楽村庄兵衛申来り候ハ、西方寺村ニ而高九石細呂木村太郎  
左衛門持来り候を、七年以前丑年の質物ニ取置候処、終ニ請出し  
不申流高二罷成候ニ付、太郎左衛門高流証文仕相渡シ申ニ付、高  
請取申候由断申来り候

同廿九日

(後欠)